

八重山地域における
飲酒の実態調査報告書

沖縄県八重山福祉保健所

平成 28 年 3 月

はじめに

アルコール飲料は、日常生活のさまざまな場面で飲用され「酒は百薬の長」「酒は社会の潤滑油」などと言われることがあります。しかし一方では、アルコールの多量摂取などにより健康障害のみならず、多くの社会問題を引き起こすこともあります。

特に、沖縄県においては全国に比べ多量飲酒者の割合が高く、それが青壮年層の健康状況悪化の大きな原因となっており、アルコール対策は沖縄県の健康長寿復活プランである「健康おきなわ 21（第2次）」における重点課題の一つとなっているところです。

そこで、八重山地域においても地域の実態を把握し、今後のアルコール対策を検討するためにAUDIT（アルコール使用障害特定テスト）を主としたアンケート調査を実施しました。

その結果、男性は20代～60代のどの年齢層においてもアルコール依存症疑いは10～15%、問題飲酒者は40～45%というような割合でした。

一方、女性ではアルコール依存症が疑われる者の割合は約2%、問題飲酒者は約10%となっていますが、20代において問題飲酒者の割合が約25%と高くなっていることがわかりました。

今回の調査結果を沖縄県全体と比較したとき、男性ではアルコール依存症疑いの割合はほぼ同等で、問題飲酒者はやや高く、女性ではどちらもやや低い状況にありました。全国と比べると、アルコール依存症疑いは男性でやや高く、問題飲酒者は男女ともに極めて高い割合になっていることがわかりました。

このように20代、30代の若年層からアルコール依存症疑いや問題飲酒者が多数存在するということは深刻な状況であり、このことを改善することが沖縄県の健康長寿を復活するための鍵になるものと思われます。今後はその解決のために関係機関・団体等と連携し対策を検討していきたいと考えています。

本調査を実施するにあたり、沖縄県八重山警察署・安全運転学校八重山分校、独立行政法人国立病院機構琉球病院福治康秀院長、福田貴博先生、調査に協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

平成28年3月

八重山福祉保健所
所長 崎山八郎

目次

1	調査概要	1
(1)	目的	
(2)	実施主体	
(3)	調査期間	
(4)	調査対象	
(5)	調査内容	
(6)	調査方法	
(7)	倫理上の配慮	
(8)	調査結果	
2	結果	3
(1)	有効回答数および有効回答率	
(2)	八重山地域の人口との比較	
(3)	適正飲酒量を知っているか	
(4)	飲酒者	
(5)	AUDIT	
	ア アルコールをどのくらいの頻度で飲みますか（飲酒頻度）	
	イ 普段1回で飲むお酒の量はどの位ですか（1回の飲酒量）	
	ウ 1度にビール3缶以上飲むことがどの位の頻度でありますか（多量飲酒の頻度）	
	エ AUDIT スコア	
(6)	初飲年齢	
(7)	講習区分	
	ア 講習区分と AUDIT スコア	
	イ 講習区分と初飲年齢	
(8)	日頃から飲酒量を減らしたいと思うか	
	ア AUDIT スコア	
	イ お酒の量	
	ウ 飲酒頻度	
3	考察	18
(1)	適正飲酒量を知っているか	
(2)	飲酒者	
(3)	AUDIT 関連	
	ア 通常の飲酒量	
	イ AUDIT スコア	
	(ア) 性別 AUDIT スコア	
	(イ) 年代別 AUDIT スコア（男性）	

(ウ) 年代別 AUDIT スコア (女性)

(4) 初飲年齢関連

4	本調査から見える現状と課題	28
5	今後の対策	30
	【資料】	32

八重山管内における飲酒と健康に関する調査実施要項

「飲酒と健康に関するアンケート調査について」

「飲酒と健康に関するアンケート (調査票)」

1 調査概要

(1) 目的

沖縄県は都道府県別平均寿命の順位が下がるなか、平成 22 年の人口動態統計によると肝疾患による年齢調整死亡率が全国値を大きく上回り、年次推移において増加傾向にある。また、本県のアルコール性肝疾患による死亡率は全国値の約 2 倍と高く、アルコールに関する健康問題は重要な課題である。

「健康おきなわ 21 (第 2 次)」において、重点的に取り組む三つの事項のひとつにアルコール対策を掲げ、生活習慣病のリスクを高める量の飲酒者の減少と節度ある飲酒の知識の普及を目標としている。

管内において実態把握のため飲酒に関するアンケート調査を行い、正しい知識の普及と健康に及ぼす影響への早期介入を目指し、実態に即した対応を検討する。

(2) 実施主体

八重山保健所

(3) 調査期間

平成 26 年 6 月 16 日 (月) ～ 平成 26 年 9 月 30 日 (火)

(4) 調査対象

沖縄県警察安全運転学校八重山分校 運転免許証更新講習受講者

(5) 調査内容

AUDIT (アルコール使用障害特定テスト) を主とした調査用紙を使用する。

AUDIT は、WHO が問題飲酒を早期に発見する目的で作成したスクリーニングテストであり、診断をするものではない。日本でも広く活用されている。今回の調査ではアルコール飲料に泡盛を含め、飲酒量の換算の負担が少なくなるよう記入の仕方を変更した質問紙を使用する。また、純アルコール 10g を 1 ドリンクとして換算している。

AUDIT スコアについて、本調査では、「標準的な健診・保健指導プログラム【改定版】」¹⁾の 0～7 点を「問題飲酒ではないと思われる」、8～14 点を「問題飲酒ではあるが、アルコール依存症までには至っていない」、15～40 点を「アルコール依存症が疑われる」とした。また、8 点以上を「問題飲酒者」と定義して分析を行った。

(6) 調査方法

沖縄県警察安全運転学校八重山分校で運転免許証更新講習時、調査目的や個人情報保護に関する説明文書(資料1)と調査用紙(資料2)を配布する。調査用紙は、無記名自記式とし、任意による記入とする。

資料1 「飲酒と健康に関するアンケート調査について」

資料2 「飲酒と健康に関するアンケート調査(回収用)」

○調査用紙の配布と回収

講習受付時に、資料1・2を配布し、講習までの時間を使用して各自記入とする。

回収は、教室内に回収箱を設置し、各自入れることとする。

回収された調査用紙は、保健所が沖縄県警察安全運転学校八重山分校へ毎週回収に行く。

(7) 倫理上の配慮

調査目的や個人情報の保護に関する説明文書を調査用紙とともに配布し、記入回収により同意を得るものとする。

個人情報保護のため、回収された調査用紙の記入事項は数値化したデータで保管する。調査用紙原票はデータ化完了後、八重山保健所が廃棄する。

(8) 調査結果

調査結果は、集計分析後、八重山保健所 HP 上で公開し、今後の健康づくりの取り組みに活かす。

また、沖縄県警察安全運転学校八重山分校へ、調査結果について情報提供を行う。

【ドリンク数、適正飲酒量について】

純アルコール分 20g (2 ドリンク) は下のとおりである。

節度ある適度な飲酒量(男性)は1日あたり2ドリンクである。

ビールだと

約
500ml



日本酒だと

1合



泡盛(30度)だと

0.5合



ワインだと

グラス2杯
(240ml)



女性の節度ある適度な飲酒量は
1日あたり純アルコール分 10g 程度
左図の半分である。

2 結果

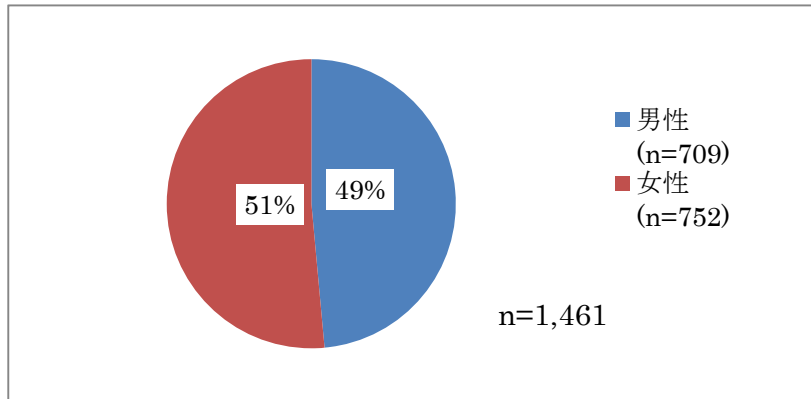
(1)有効回答数および有効回答率

回収できた 1,829 件のうち、有効回答数は年齢が 20 歳以上、年齢と性別と AUDIT の質問項目（10 項目）すべてに回答があった 1,461 件（男性 709 件、女性 752 件）で、有効回答率は 79.9%であった。

対象者の性別は、男性と女性で約半分の割合であり、年代は 20 代～60 代で男女ともに大きな偏りはない。（図 1）（図 2）

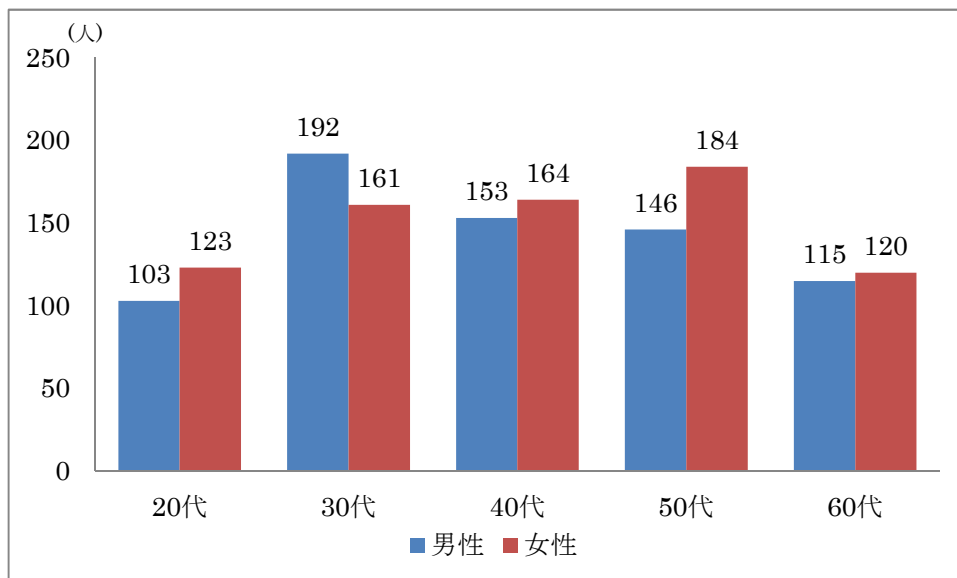
有効回答者性別

図 1



有効回答者の年齢分布

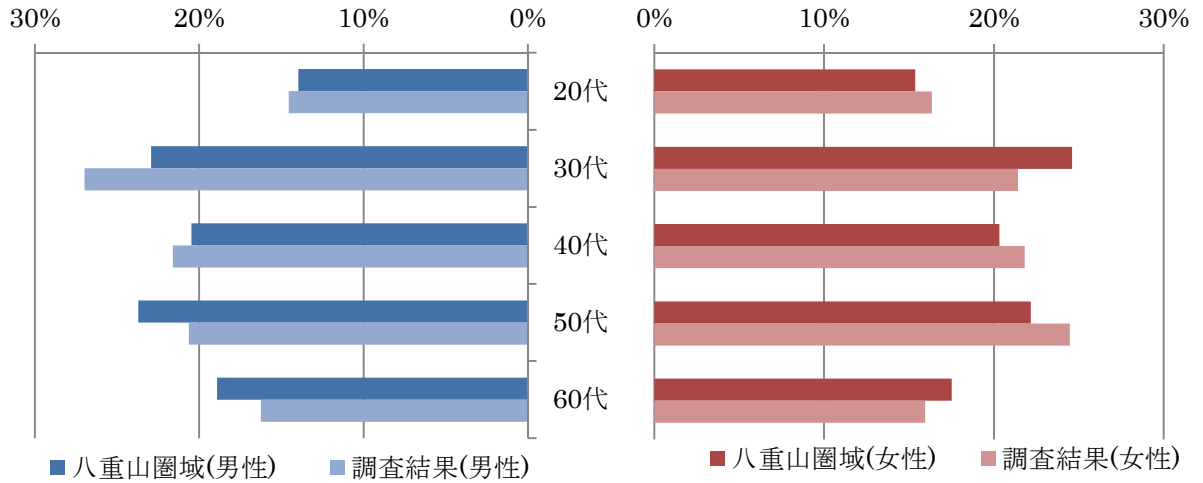
図 2



(2)八重山地域の人口との比較

有効回答者の年代および男女の割合は八重山地域の人口構成に近い値をとっていた。(図3)

図3

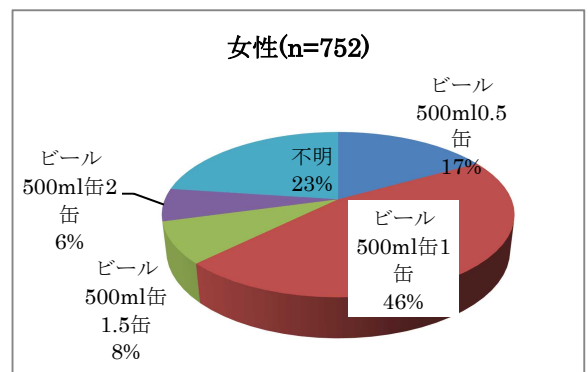
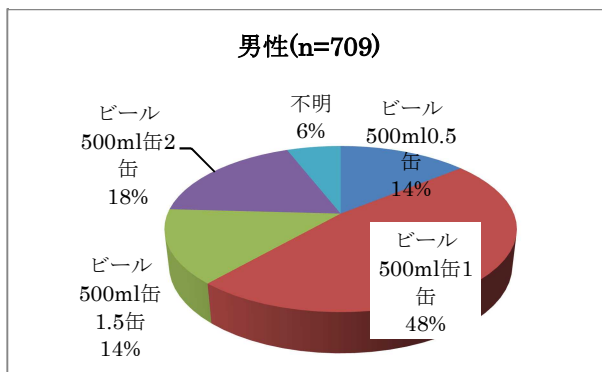


(3)適正飲酒の量を知っているか

男性の節度のある飲酒量を「ビール 500ml 缶 1 缶」と回答した者が男女とも最も多く、男性が 48%、女性が 46%であった。約 5 割の人が適正飲酒量を知っていた。(図4) (図5)

図4

図5



(4)飲酒者

男性の場合、全体では「お酒を飲む」と回答した者の割合は85.9%であった。年代別では、「お酒を飲む」と回答した割合は、20代が91.3%と最も高く、どの年代でも約80~90%はお酒を飲むと回答していた。また、年代が高くなるにつれて「お酒を飲む」と回答した割合は減少していた。(図6)

女性の場合、全体では「お酒を飲む」と回答した者の割合は55.6%であった。年代別では「お酒を飲む」と回答した割合は、20代が70.7%と最も高かった。また、20代~40代まで「お酒を飲む」と回答した割合は、約70%であるが、50代は45.1%、60代は23.3%と低い割合であった。(図7)

図6

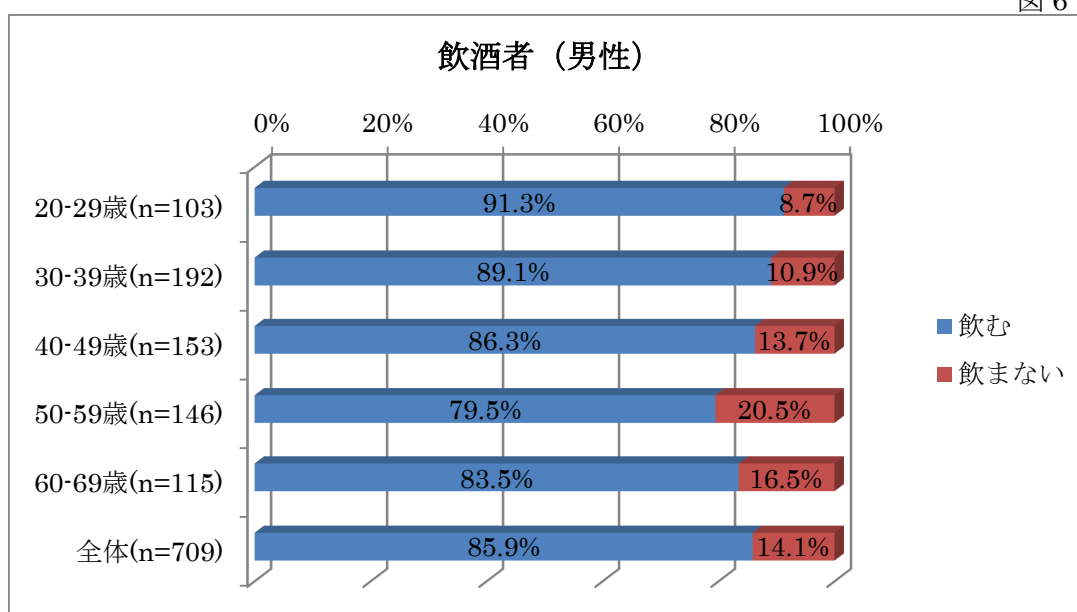
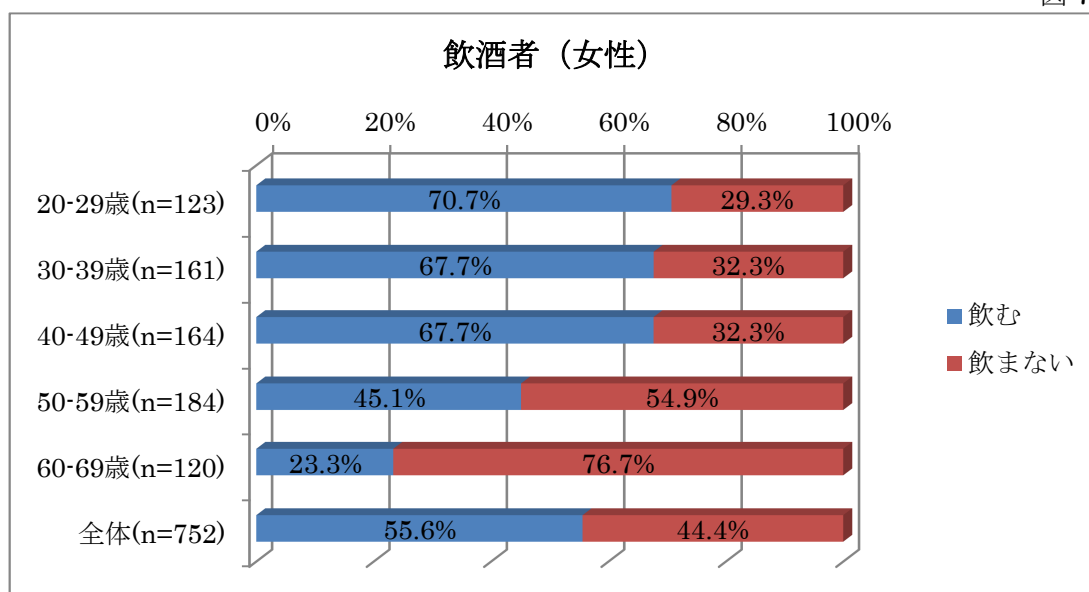


図7



(5)AUDIT

ア アルコールをどのくらいの頻度で飲みますか（飲酒頻度）

男性の場合、全体では「1週間に4回以上」と回答した割合が26.9%と最も高かった。年代別では「1週間に4回以上」が30代で28.1%、40代で32.0%、50代で30.1%と高くなっていた。（図8）

女性の場合、全体では「飲まない」と回答した割合が44.4%で最も高く、次に「1ヶ月に2～4回」と回答した割合が21.0%で高かった。年代別では「1か月に2～4回」が20代で35.0%、30代で25.5%と高くなっていた。（図9）

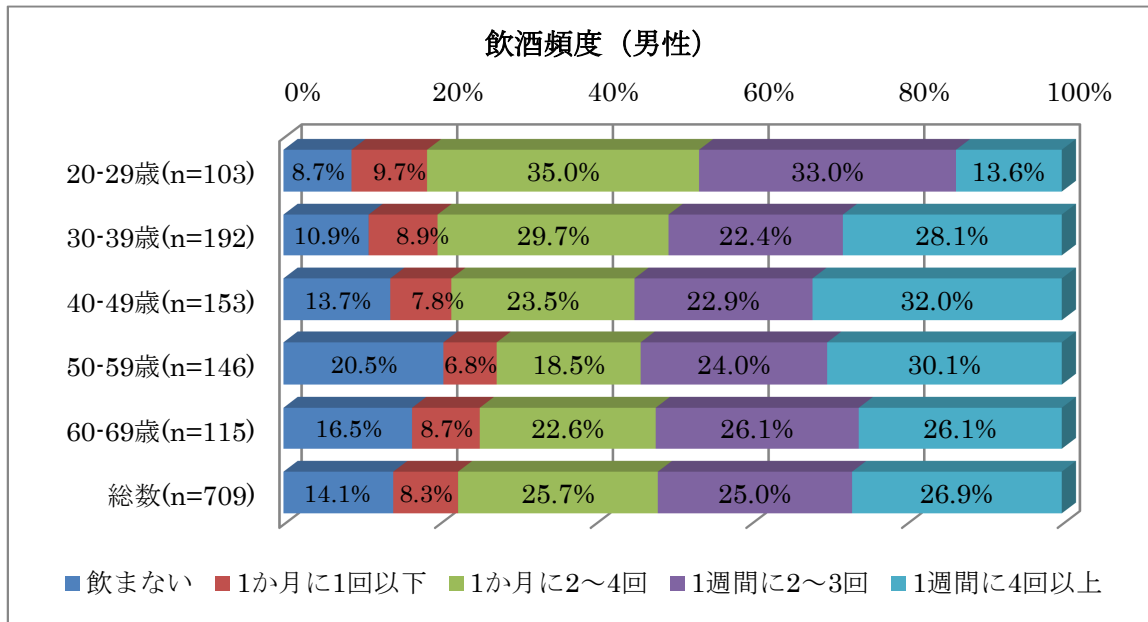
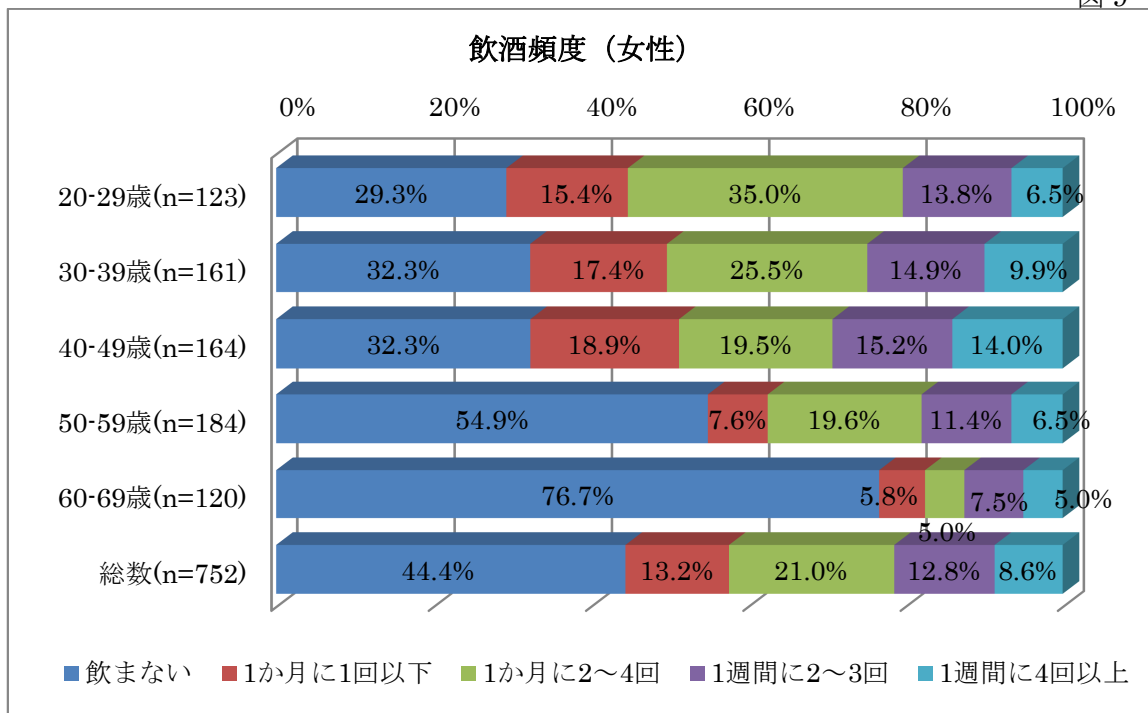


図 9



イ 普段1回で飲むお酒の量はどの位ですか（1回の飲酒量）

男性の場合、全体では「0～2ドリンク」と回答した者が最も多く34.6%であった。次に「10ドリンク以上」が20.3%だった。年代別では「10ドリンク以上」と回答した割合は、20代で26.2%、30代で24.0%、40代で21.6%と高かった。また、年代が高くなるにつれて減少傾向にあった。（図10）

女性の場合、全体では「0～2ドリンク」と回答した者が最も多く73.1%であった。年代別では「10ドリンク以上」と回答した割合は20代が13.0%、30代で5.6%、40代で3.0%、50代・60代で0.0%で、1回の飲酒量は若い世代で多い傾向が見られた。（図11）

図10

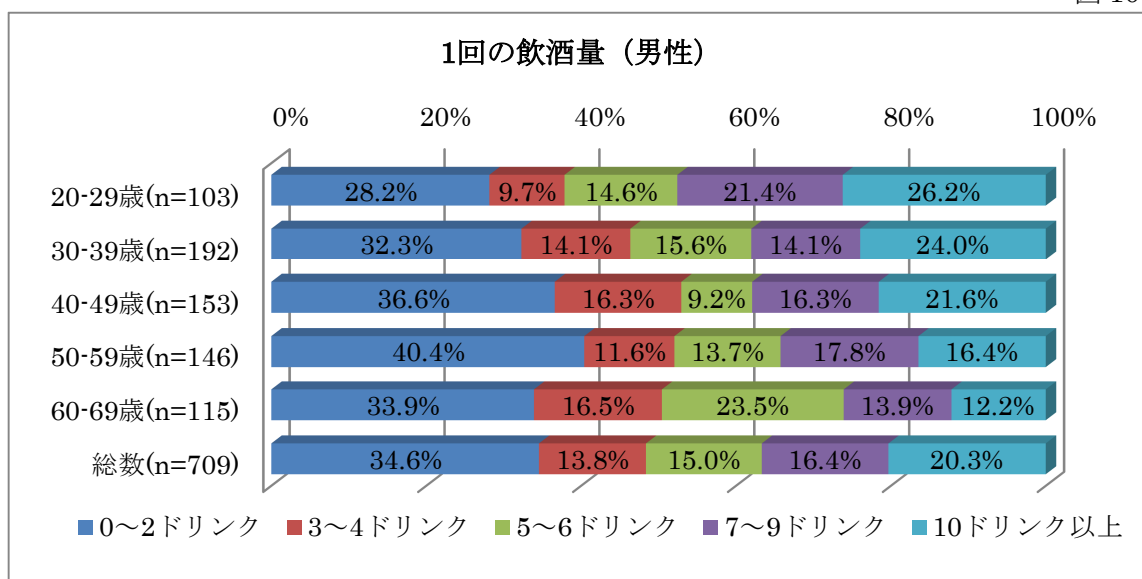
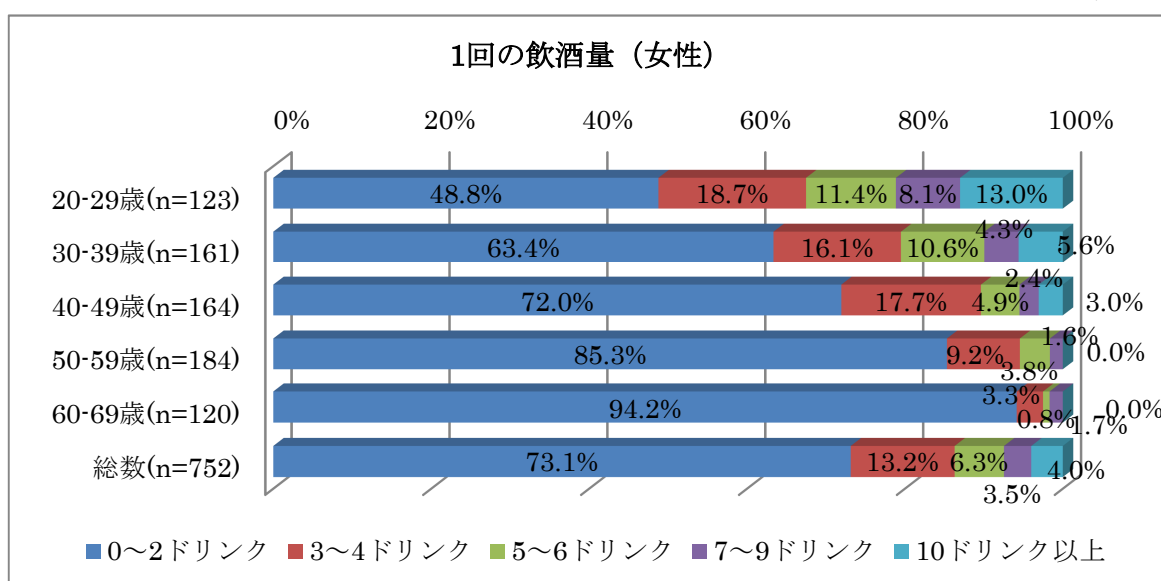


図11



ウ 1度にビール3缶以上飲むことがどの位の頻度でありますか（多量飲酒の頻度）

男性では、「1週間に1回」「毎日あるいはほとんど毎日」と回答した者の割合は、50代で34.9%と高かった。「毎日あるいはほとんど毎日」と回答した者の割合だけでみた場合、20代で5.8%、30代で8.3%、40代で7.2%、50代で8.9%、60代で9.6%と年齢が上がるにつれ高くなっていることが分かった。（図12）

女性では、「ない」「1ヶ月に1回未満」と回答した者の割合は、どの年代でも約70%を占めていた。「1週間に1回」「毎日あるいはほとんど毎日」と回答した者の割合だけでみた場合、20代で11.4%、30代で11.2%、40代で10.3%であり、50代3.3%、60代で2.5%と比較すると20代～40代は高い傾向があった。（図13）

図12

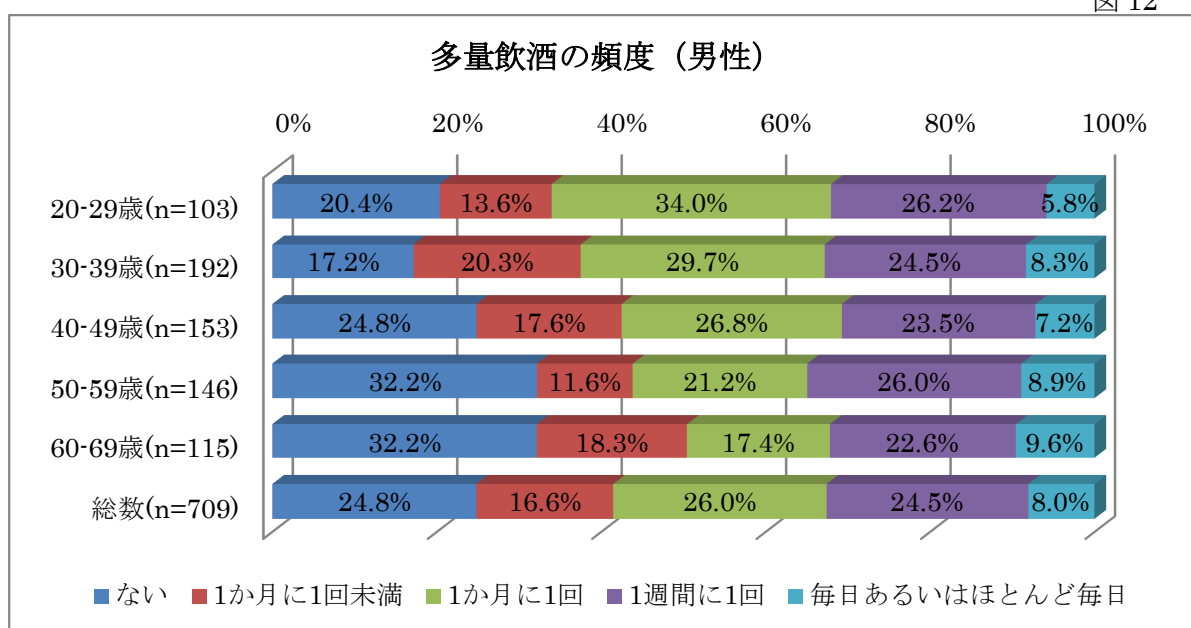
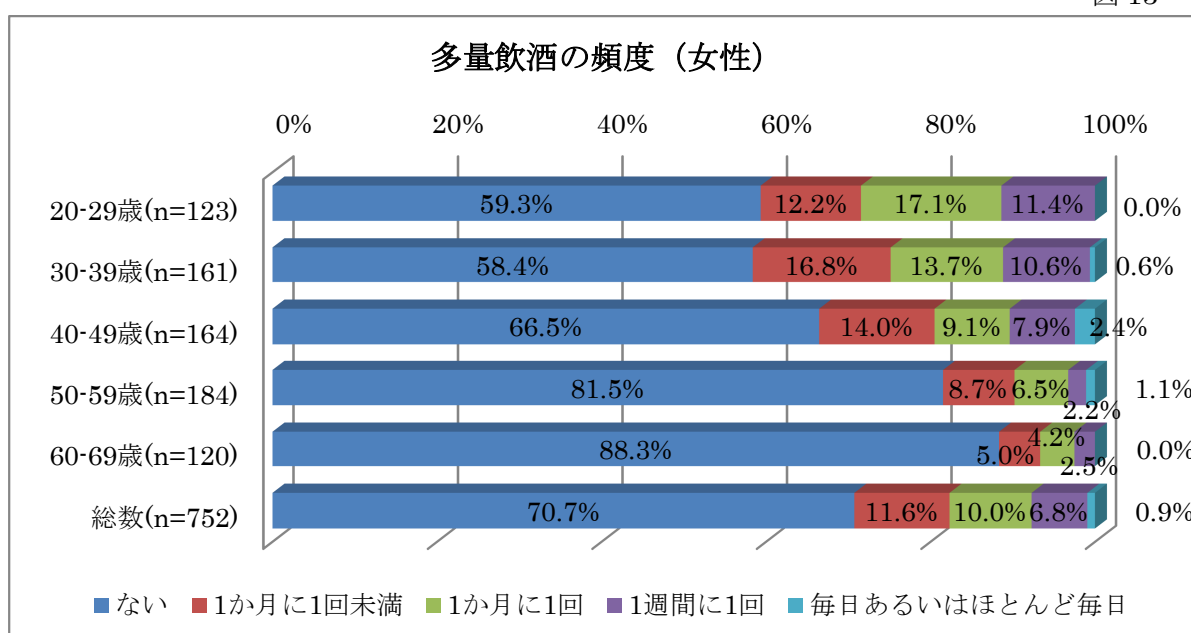


図13



エ AUDIT スコア

男性の場合、「問題飲酒ではないと思われる(0-7点)」割合はどの年代も50%を切っていた。「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない(8-14点)」割合は20代~60代のどの年代でも約40~45%おり、「アルコール依存症が疑われる(15-40点)」割合は、20代~60代で約10~15%であった。つまり、どの年代も男性の10人に1人はアルコール依存症疑いであり、10人に4人はアルコール依存症までは至っていないが問題飲酒の者であった。(図14)女性の場合、「問題飲酒ではないと思われる(0-7点)」割合はどの年代も約70%を占めていた。「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない(8-14点)」割合をみると、20代で24.4%と最も高く、年代が上がるにつれて減少傾向にあった。20代は「アルコール依存症が疑われる(15-40点)」割合が3.3%でどの年代よりも高かった。(図15)

図 14

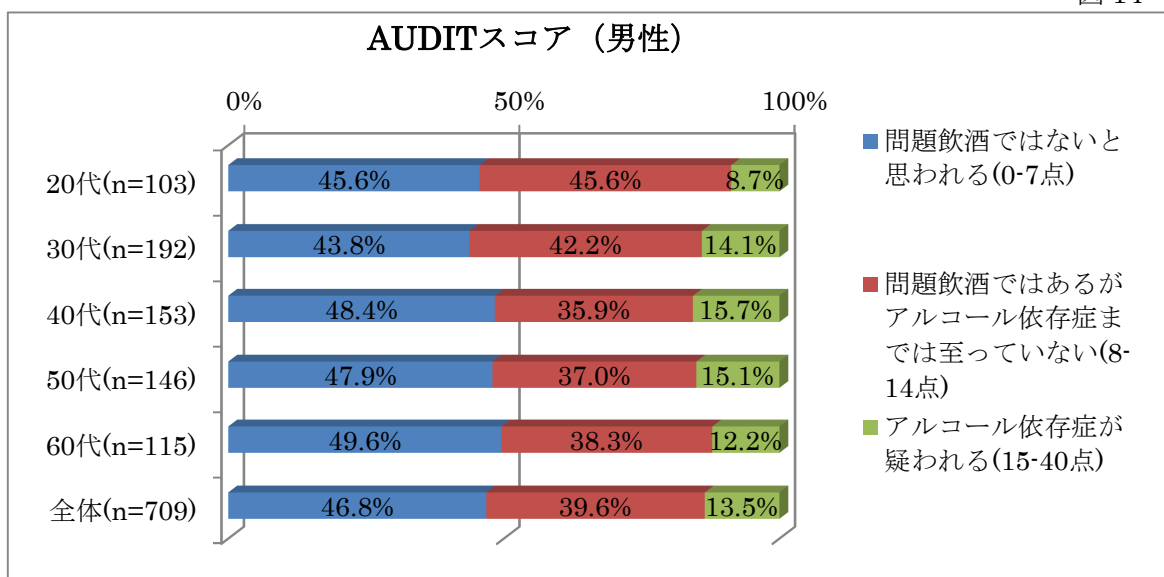
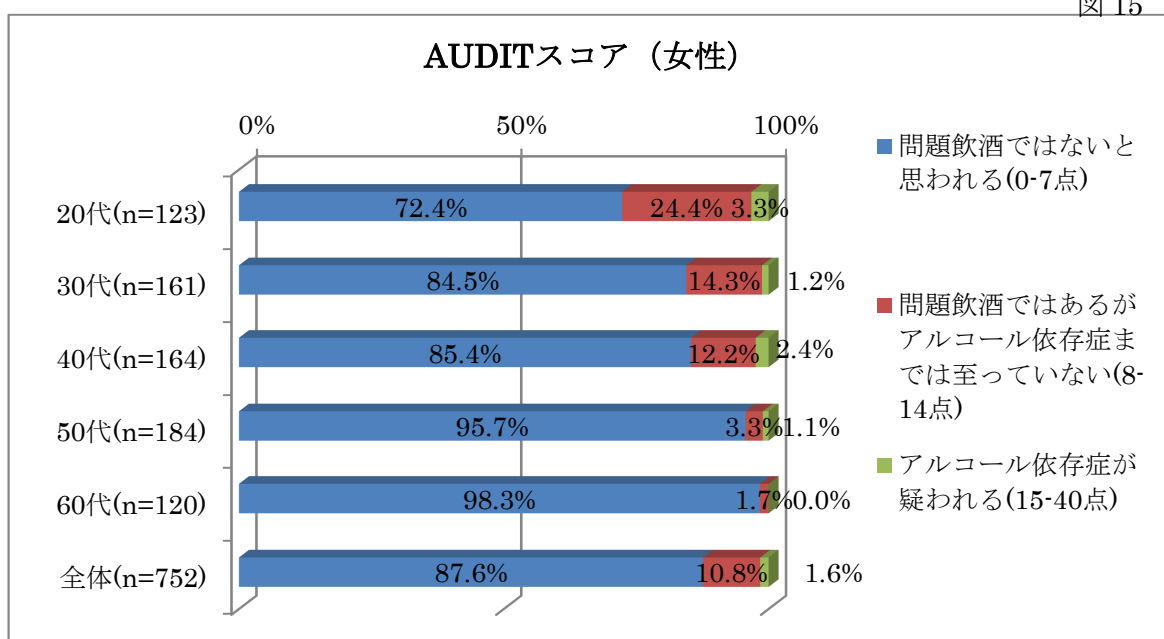


図 15



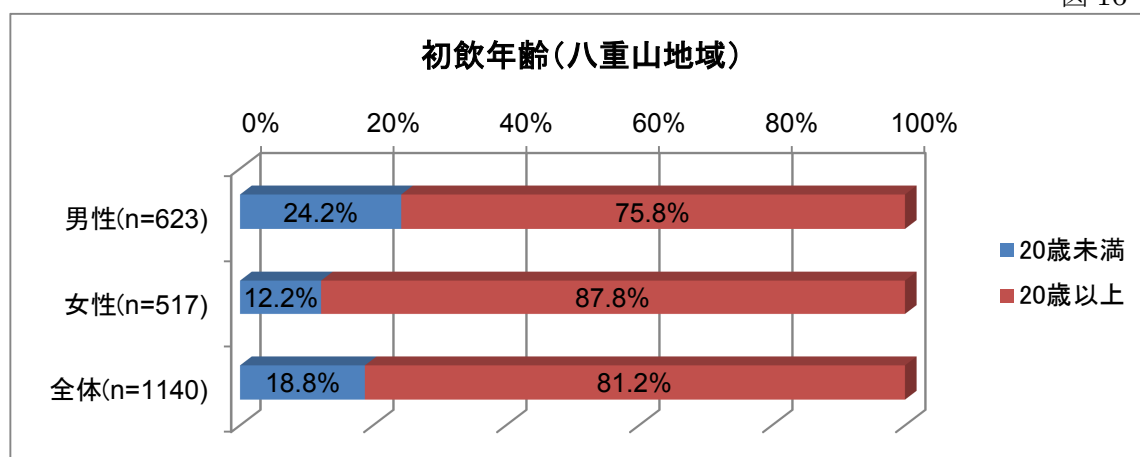
(6)初飲年齢

初飲年齢の回答数は 1,140 件であった。得られた回答のうち、未成年飲酒経験者は全体で 18.8%（男性 24.2%、女性 12.2%）であった。（図 16）また、未成年者飲酒経験者の平均初飲年齢は 16.7 歳（男性 16.9 歳、女性 16.3 歳）であった。（表 1）

表 1

	20 歳未満	20 歳以上	総数	回答無し	平均初飲年齢	未成年飲酒者の平均初飲年齢
男性	151	472	623	86	19.7 歳	16.9 歳
女性	63	454	517	235	20.2 歳	16.3 歳
全体	214	926	1140	321	19.9 歳	16.7 歳

図 16



初飲年齢と AUDIT スコアについて分析したところ、男性の場合、「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる」者の割合は初飲年齢が 20 歳未満は 66.2%、初飲年齢が 20 歳以上は 52.5%で、初飲年齢が 20 歳未満の方が問題飲酒者の割合が高かった。(図 17)女性の場合においても、「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる」者の割合は初飲年齢が 20 歳未満は 27.0%、初飲年齢が 20 歳以上は 14.5%で、初飲年齢が 20 歳未満の方が問題飲酒者の割合が高かった。(図 18)

図 17

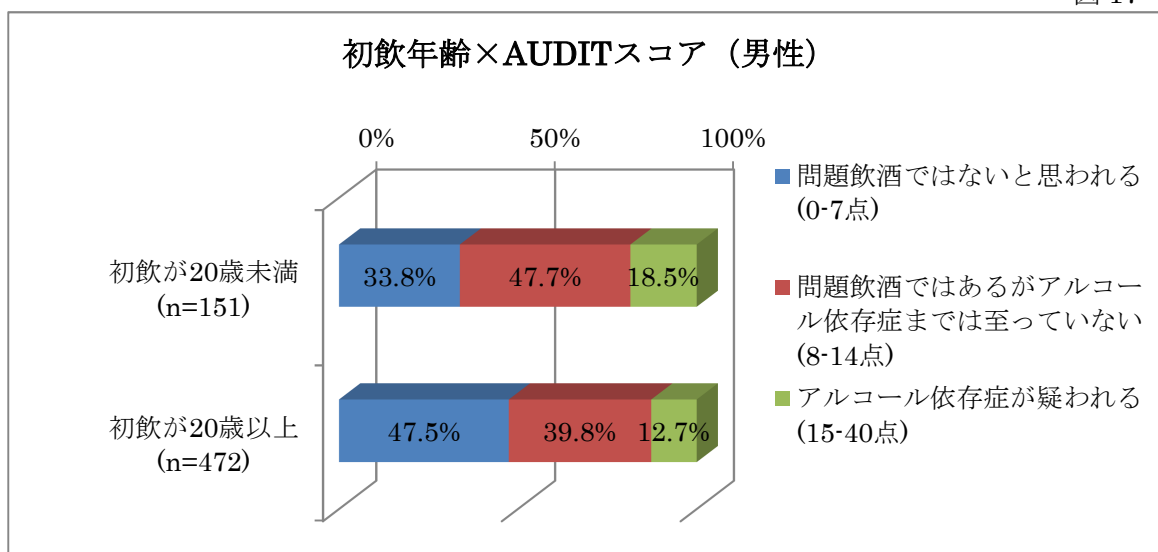
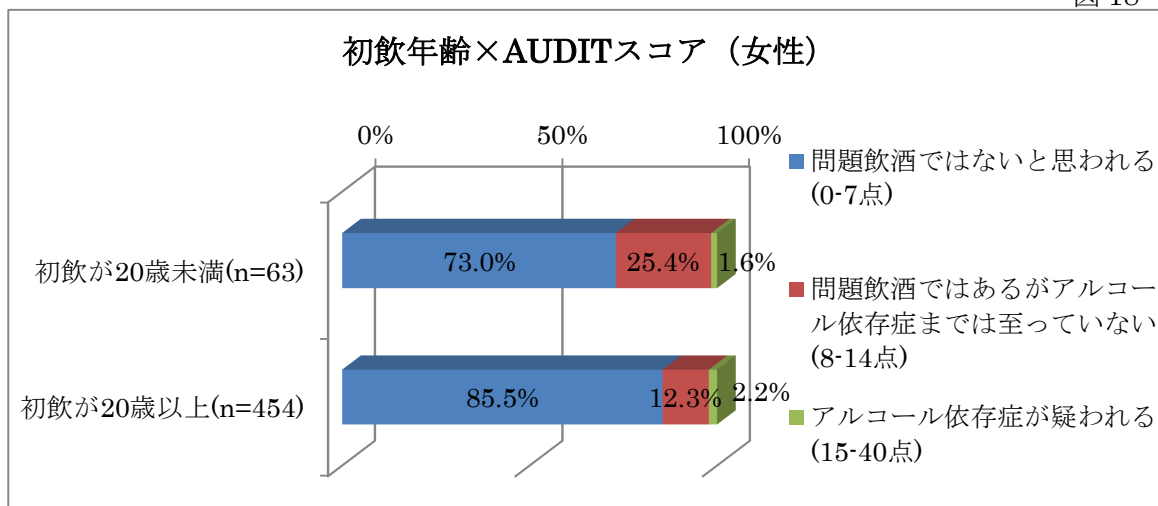


図 18



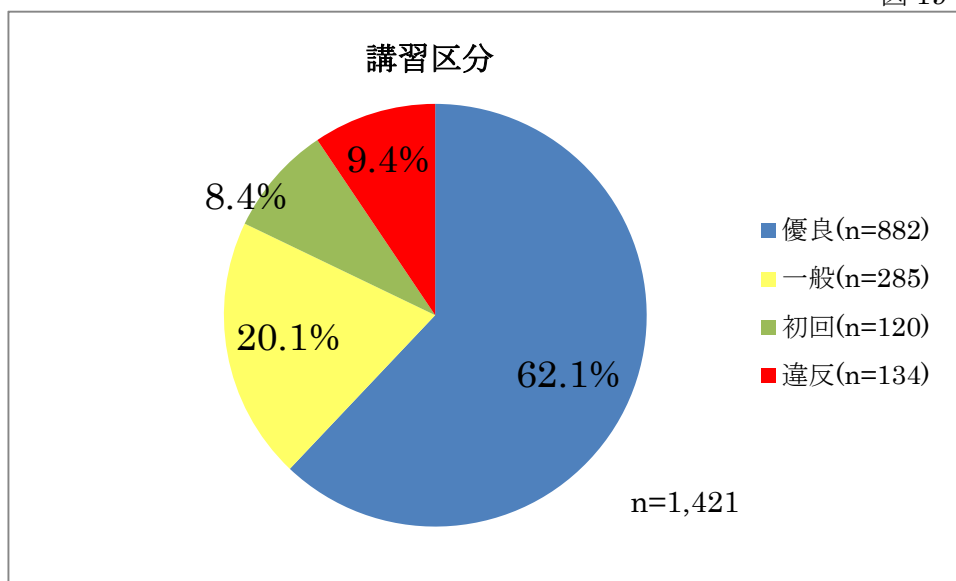
(7)講習区分

運転免許証更新講習における区分と内容は以下のとおりである。

講習区分	内容
優良	継続して免許を受けている期間が5年以上で、過去5年間無事故無違反の方
一般	継続して免許を受けている期間が5年以上で、過去5年間に軽微な違反（3点以下）が1回のみの方
初回	新規免許取得後5年未満で、軽微な違反（3点以下）1回以下の方
違反	優良運転者、一般運転者、初回更新者講習受講以外の方

講習区分の回答を得られた数は 1,421 件であった。講習区分の内訳は「優良」の割合が 62.1%で最も多かった。次に、「一般」が 20.1%、「違反」が 9.4%、「初回」が 8.4%の順に多かった。(図 19)

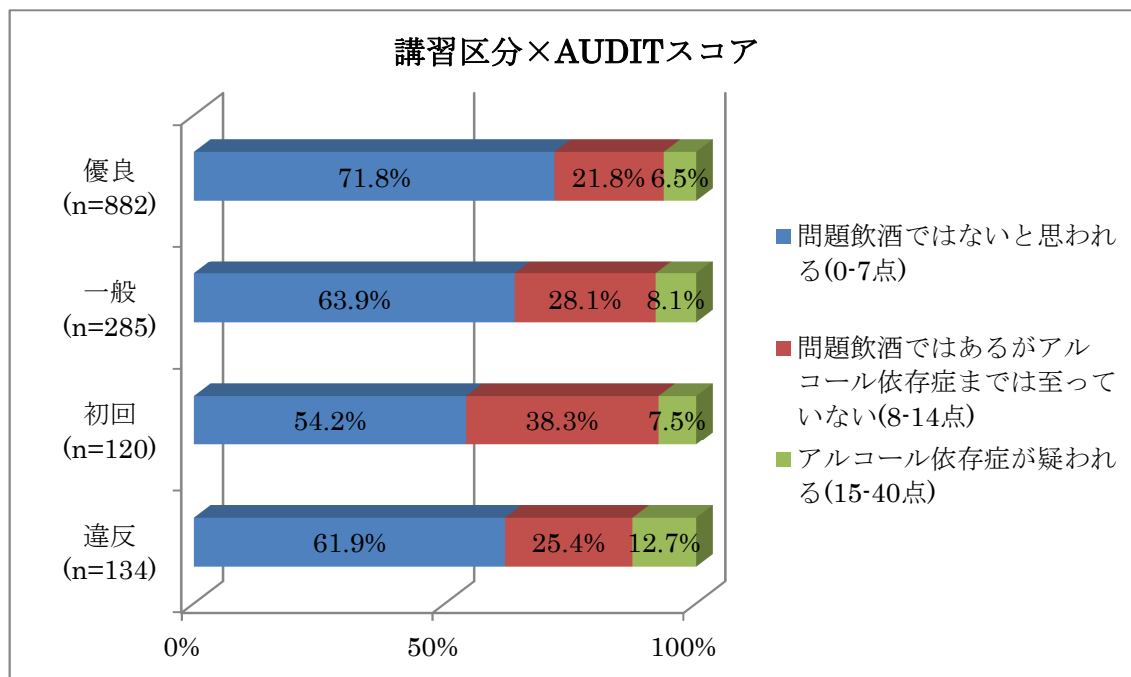
図 19



ア 講習区分と AUDIT スコア

講習区分と AUDIT スコアについて分析したところ、「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」者の割合は、「初回」区分者が 38.3%で最も高かった。「アルコール依存症が疑われる」者の割合については、「違反」区分者が 12.7%で最も多く、「優良」区分者の 6.5%と比較すると約 2 倍だった。(図 20)

図 20

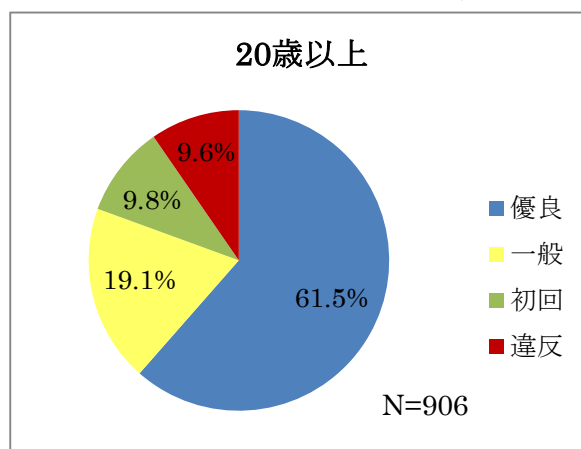
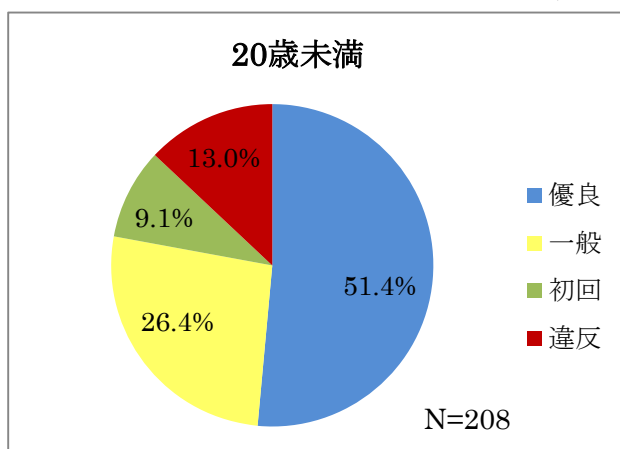


イ 講習区分と初飲年齢

講習区分と初飲年齢について分析したところ、初飲年齢が 20 歳未満は、「違反」者が 13.0%で初飲年齢が 20 歳以上の 9.6%よりも高かった。また、初飲年齢が 20 歳未満は「優良」区分者が 51.4%で初飲年齢が 20 歳以上の 61.5%よりも低かった。(図 21)(図 22)

図 21

図 22



(8)日頃から飲酒量を減らしたいと思うか

ア AUDIT スコア

飲酒者に「日頃から飲酒量を減らしたいと思うか」という質問を行った。その回答とAUDIT スコアについて分析したところ、男女とも「アルコール依存症が疑われる」者において、「そう思う」と回答した割合が最も高く、男性 49.0%、女性 58.3%だった。(図 23)(図 24)

図 23

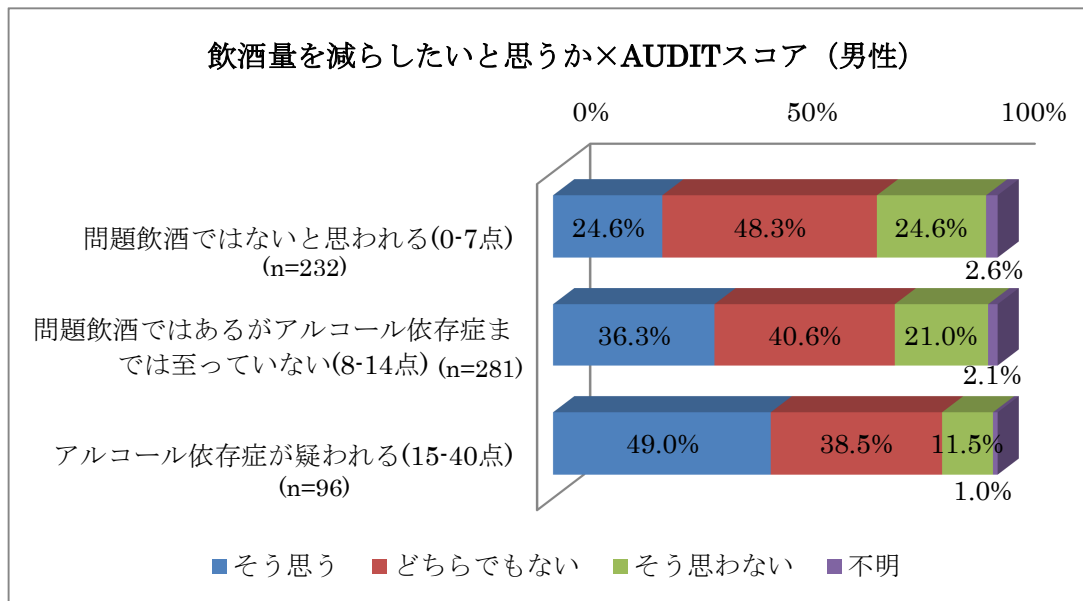
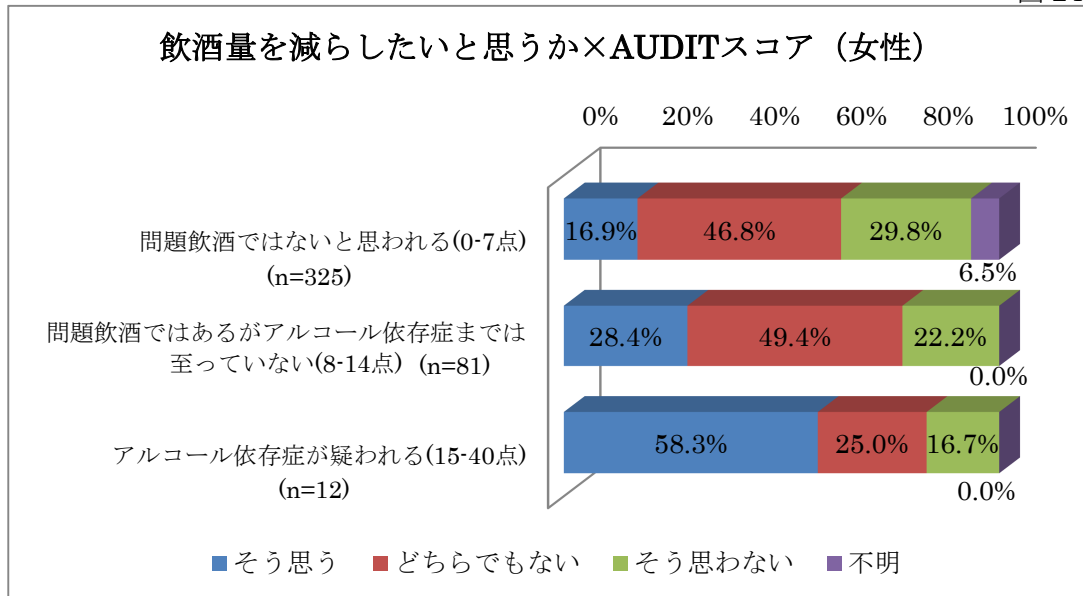


図 24



また、AUDIT スコアの「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる」者において、「日頃から飲酒量を減らしたいと思うか」という質問に対して、「そう思う」と回答した者について年代別でみてみた。男性は 20 代 23.2%、30 代 36.1%、40 代 48.1%、50 代 47.4%、女性は 20 代 23.5%、30 代 36.0%、40 代 37.5%、50 代 50.0%で男女とも 20 代～50 代までは年代が高くなるにつれてその割合が増加していた。(図 25)(図 26)

図 25

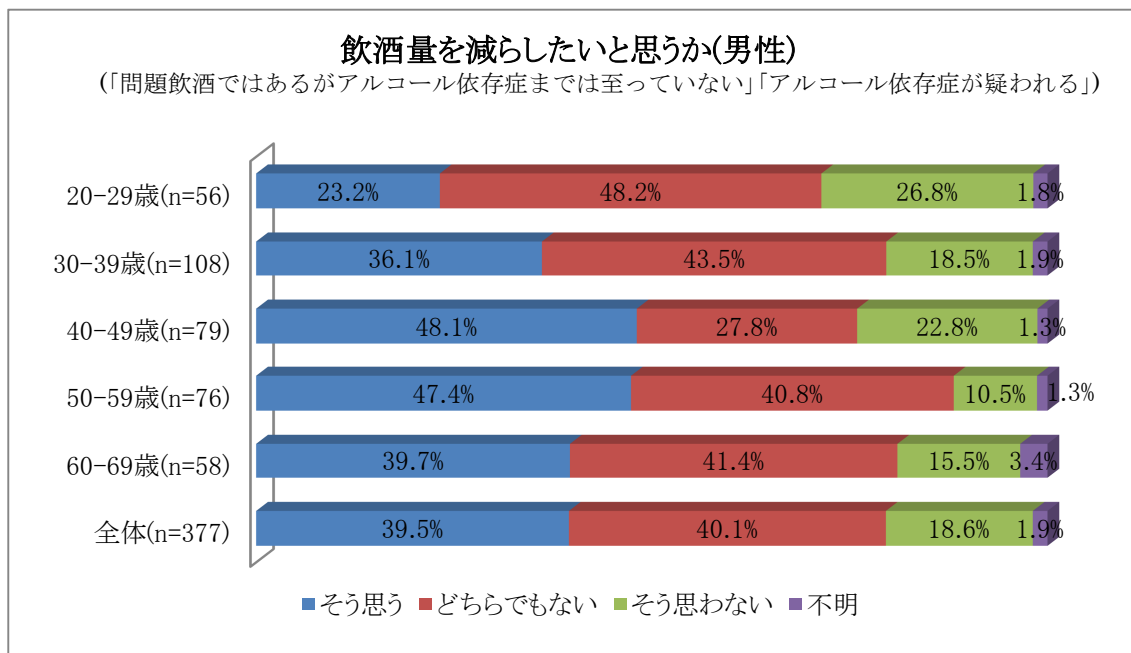
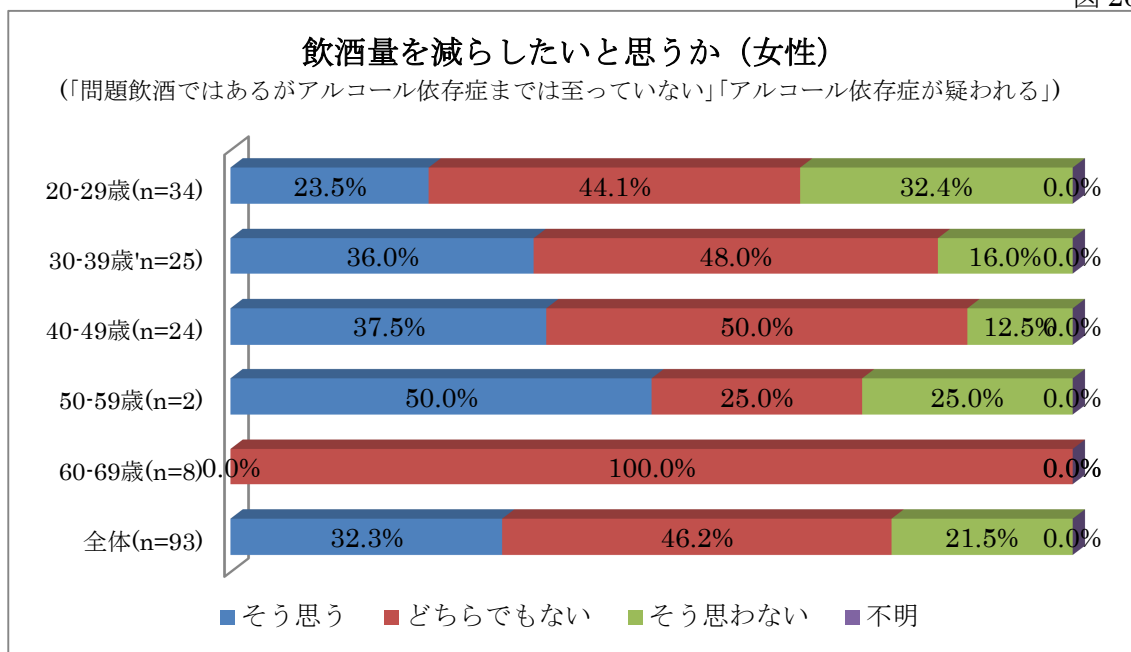


図 26



イ お酒の量

次に、飲酒者への「日頃から飲酒量を減らしたいと思うか」という質問に対する回答と 1 回のお酒の量（ドリンク数）について分析したところ、男性では「そう思う」と回答した割合は「3～4 ドリンク」で 36.7%、「5～6 ドリンク」は 39.6%、「7～9 ドリンク」は 37.1%、「10 ドリンク以上」は 34.7%でドリンク数の違いであまり差はなかった。（図 27）

女性においても、「そう思う」と回答した割合は「3～4 ドリンク」で 21.2%、「5～6 ドリンク」は 23.4%、「7～9 ドリンク」は 19.2%、「10 ドリンク以上」は 23.3%でドリンク数の違いであまり差はなかった。（図 28）

図 27

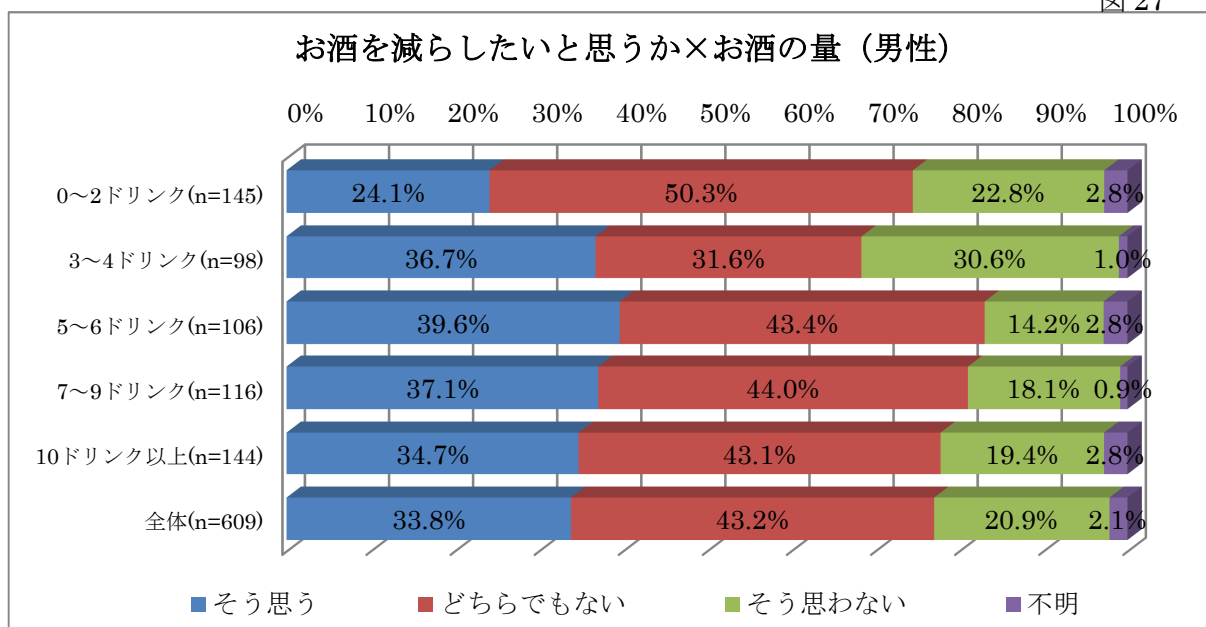
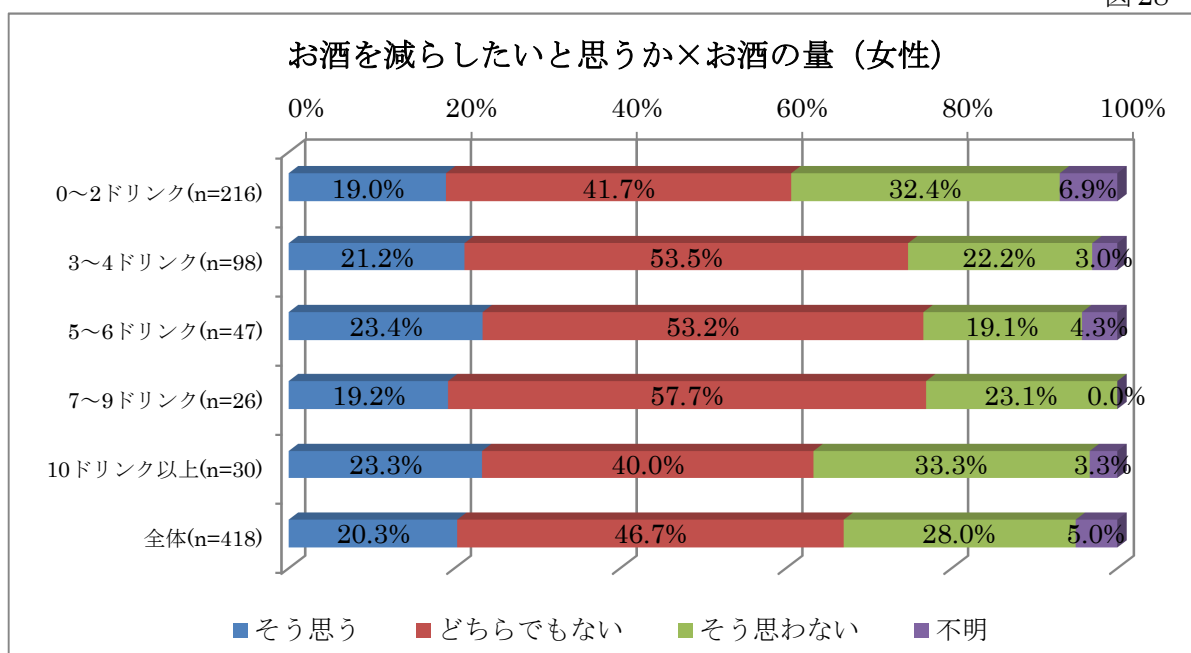


図 28



ウ 飲酒頻度

次に、飲酒者への「日頃から飲酒量を減らしたいと思うか」という質問に対する回答と飲酒頻度について分析した。飲酒頻度が「1か月に1回以下」の者は「そう思う」と回答した者は男性 32.2%、女性 18.2%で、飲酒頻度が「1週間に4回以上」の者は「そう思う」と回答した者は男性 35.6%、女性 29.2%で男女とも、飲酒頻度の多い人の方が日頃から飲酒量を減らしたいと思っている者の割合が高い傾向にあった。(図 29)(図 30)

図 29

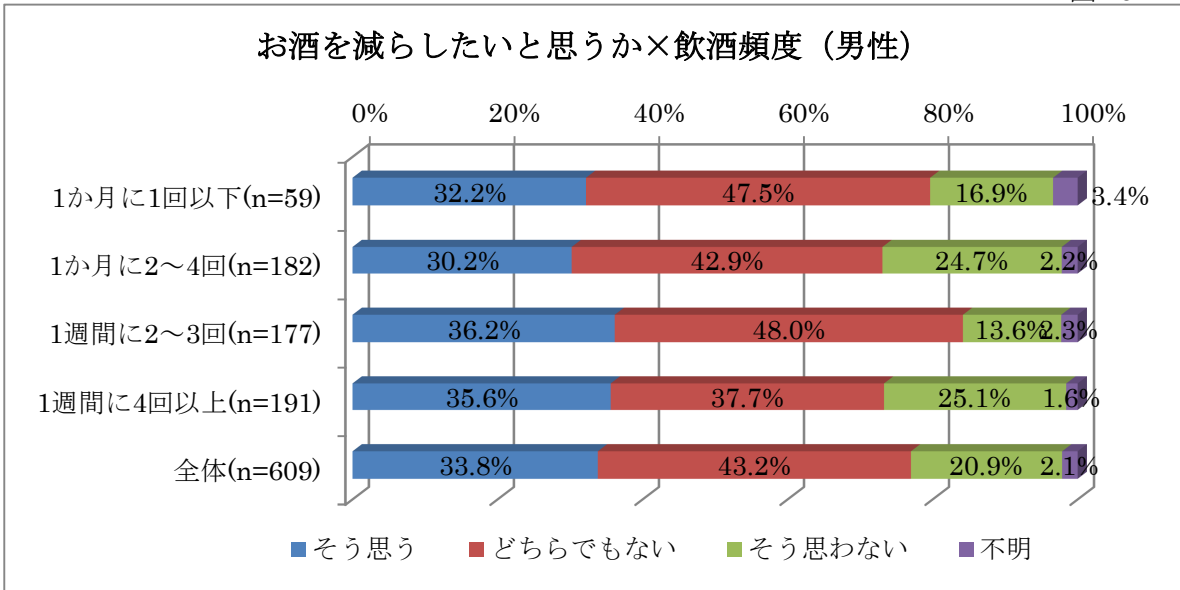
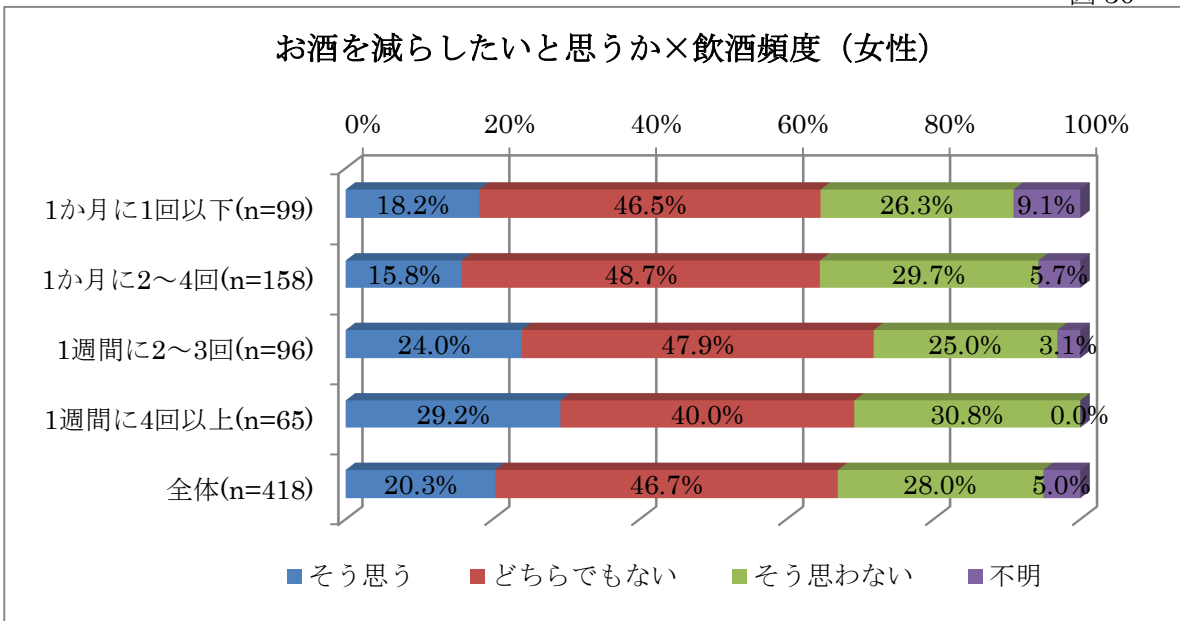


図 30

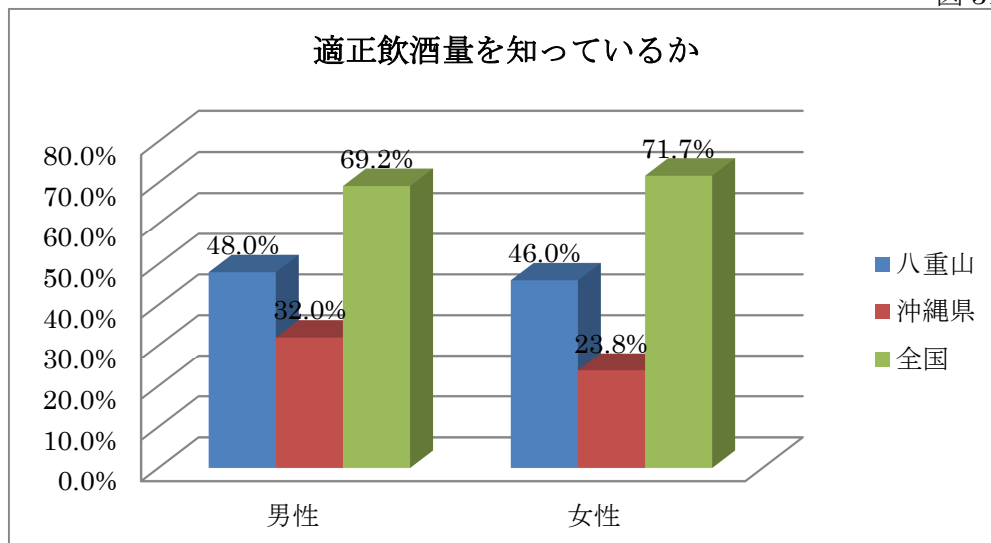


3 考察

(1)適正飲酒の量を知っているか

適正飲酒量を知っている者の割合について、本調査と沖縄県県民・栄養調査²⁾、国民健康・栄養調査³⁾にある値と比較した。八重山地域は男性 48.0%、女性 46.0%で沖縄県の男性 32.0%、女性 23.8%と比較すると多かった。しかし、全国の男性 69.2%、女性 71.7%と比較すると適正飲酒量を知っている者は少なかった。(図 31)

図 31



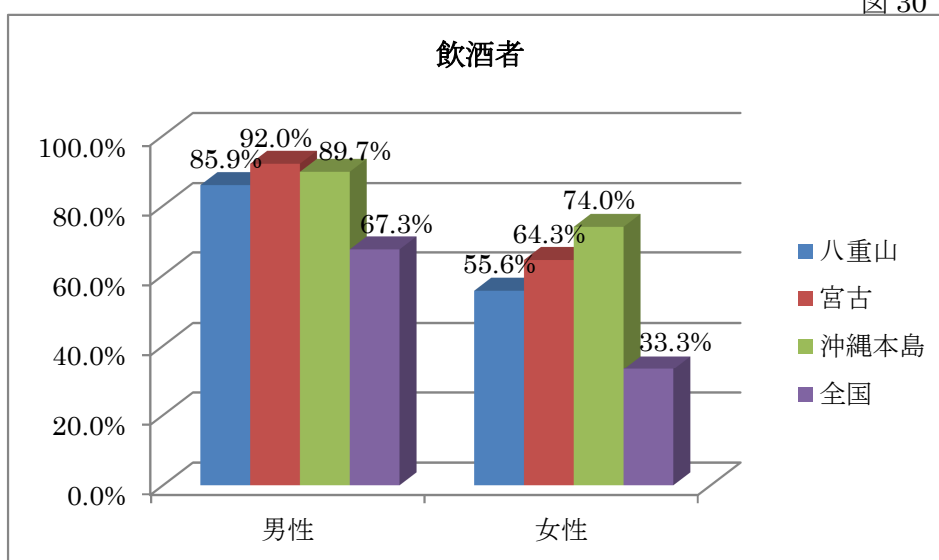
※平成 23 年度県民健康・栄養調査(沖縄県)

※平成 20 年国民健康・栄養調査

(2)飲酒者

飲酒者の割合について、本調査と平成 26 年度適正飲酒推進調査事業（沖縄本島）⁴⁾、国民健康・栄養調査⁵⁾、宮古地域における飲酒の実態調査報告⁶⁾と比較した。沖縄本島と宮古地域の飲酒者については、飲酒頻度の質問項目について、「飲まない」と回答した者以外を飲酒者と定義した。全国（国民健康・栄養調査）の飲酒者については「やめた(1年以上やめている)」「ほとんど飲まない(飲めない)」と回答した者以外を飲酒者と定義した。八重山地域は男性 85.9%、女性 55.6%で沖縄本島の男性 89.7%、女性 74.0%、宮古地域の男性 92.0%、女性 64.3%と比較すると低かったが、全国の男性 67.3%、女性 33.3%と比較すると高かった。（図 30）

図 30



※宮古地域における飲酒の実態調査報告(平成 26 年 3 月)

※平成 26 年度適正飲酒推進調査事業(沖縄県)

※平成 24 年国民健康・栄養調査

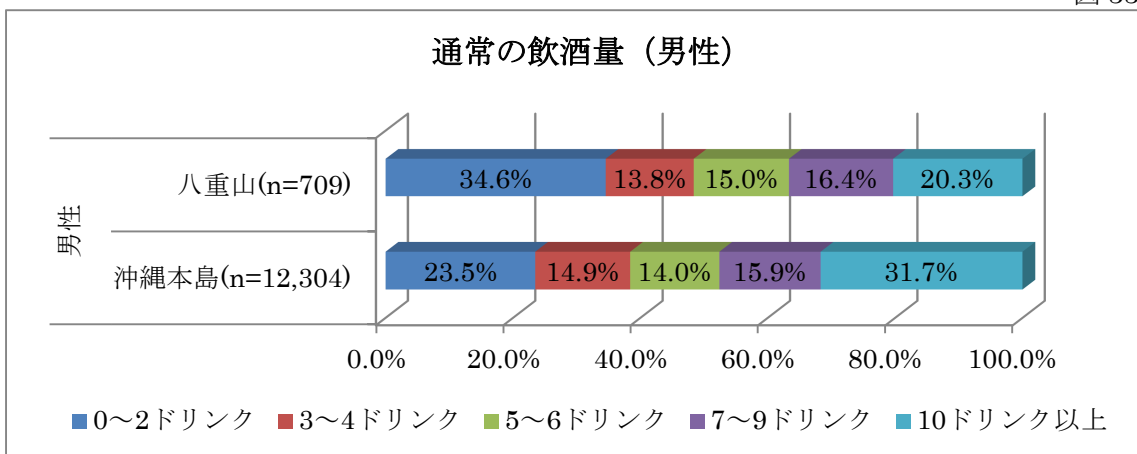
(3)AUDIT 関連

ア 通常の飲酒量

通常の飲酒量（1日の飲酒量）について、本調査と平成26年度適正飲酒推進調査事業（沖縄本島）、国民健康・栄養調査と比較した。国民健康・栄養調査では「飲酒日の1日あたりの飲酒量」を聞いている。また、集計のドリンク数が本調査と異なるが参考として比較してみた。

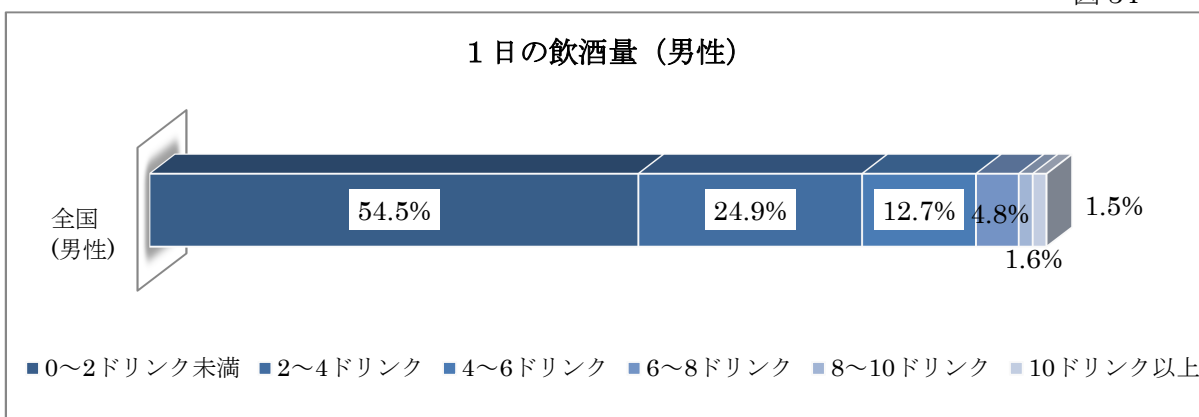
男性の場合、八重山地域は「0～2ドリンク」は34.6%で沖縄本島の23.5%と比較し高かった。次に高い「10ドリンク以上」は20.3%で沖縄本島の31.7%と比較すると低かった。しかし、全国の「0～2ドリンク」の割合は54.5%でそれと比較すると低く、また「10ドリンク以上」の割合は1.5%で八重山地域はその約20倍の割合であった。（図33,図34）

図 33



※平成26年度適正飲酒推進調査事業(沖縄県)

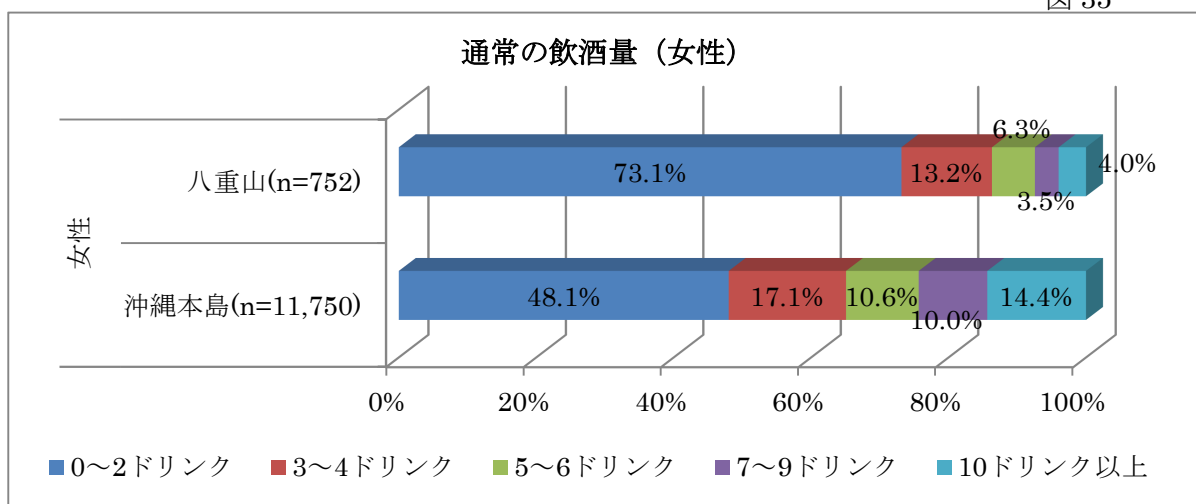
図 34



※平成24年国民健康・栄養調査報告

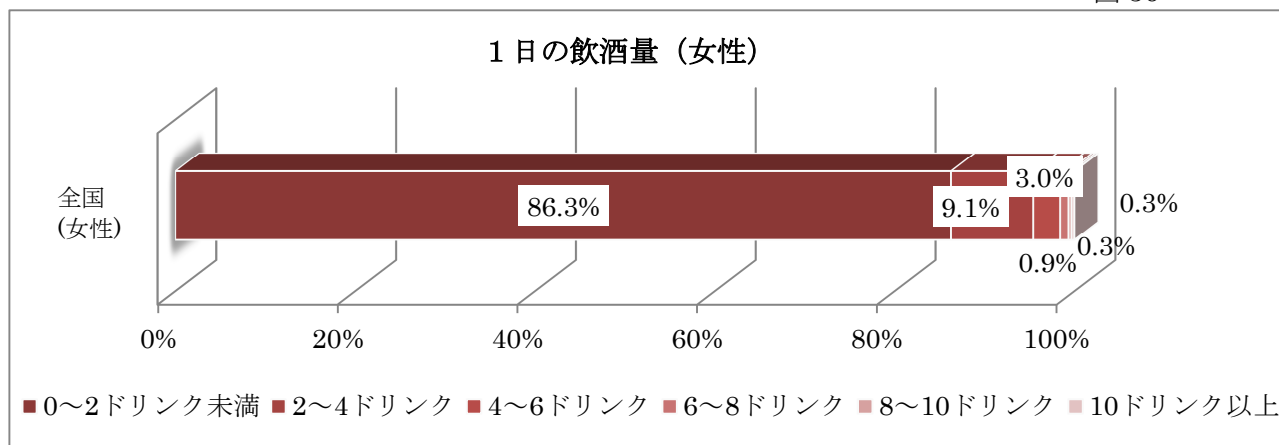
女性の場合も、八重山地域の「0～2 ドリンク」は 73.1%で沖縄本島の 48.1%と比較すると高かった。「7～9 ドリンク」「10 ドリンク以上」はそれぞれ 3.5%、4.0%で沖縄本島の 10.0%、14.4%と比較すると低かった。しかし、全国の「0～2 ドリンク」は 86.3%でそれと比較すると低く、「10 ドリンク以上」は 0.3%で八重山地域はその 10 倍以上の割合であった。(図 35, 図 36)

図 35



※平成 26 年度適正飲酒推進調査事業(沖縄県)

図 36



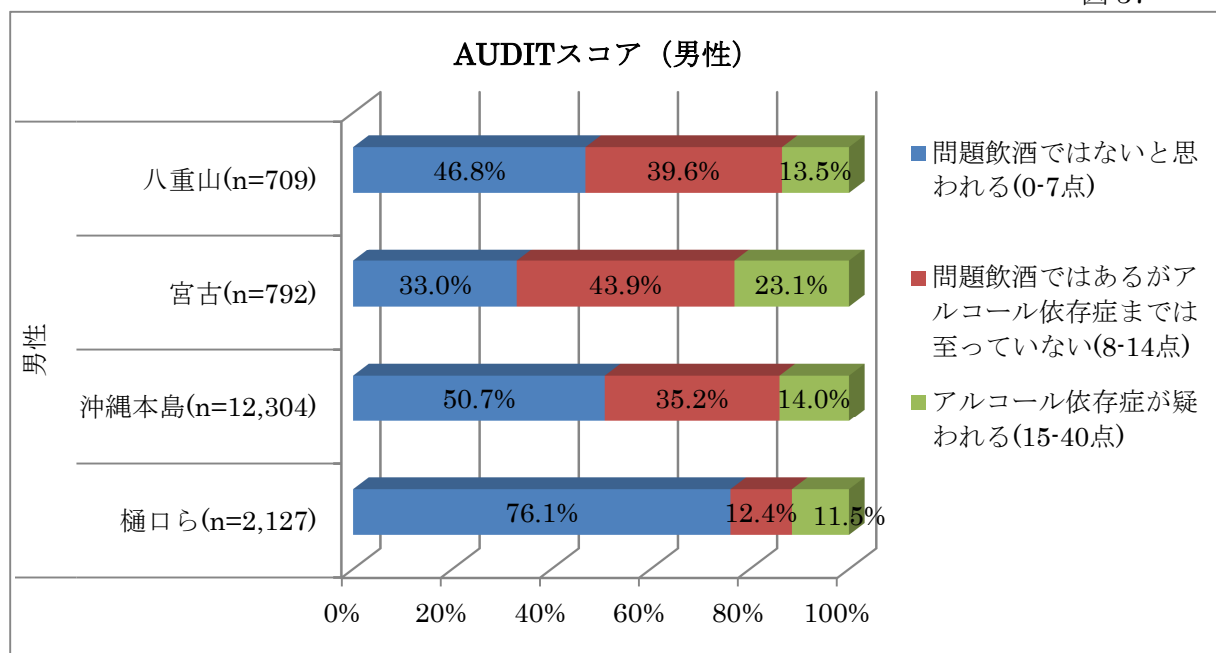
※平成 24 年国民健康・栄養調査報告

イ AUDIT スコア

(ア)性別 AUDIT スコア

本調査と平成 26 年度適正飲酒推進調査事業（沖縄本島）、宮古地域における飲酒の実態調査報告、樋口らの実態調査⁷⁾と比較した。男性の場合、「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる」者の割合はそれぞれ 39.6%、13.5%で宮古地域の 43.9%、23.1%と比較すると低く、沖縄本島の 35.2%、14.0%と比較すると同じような傾向にあった。しかし、樋口らの調査の「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる」者の割合はそれぞれ 12.4%、11.5%と比較すると高かった。「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」者の割合は樋口らの調査の 3 倍以上の割合であった。（図 37）

図 37



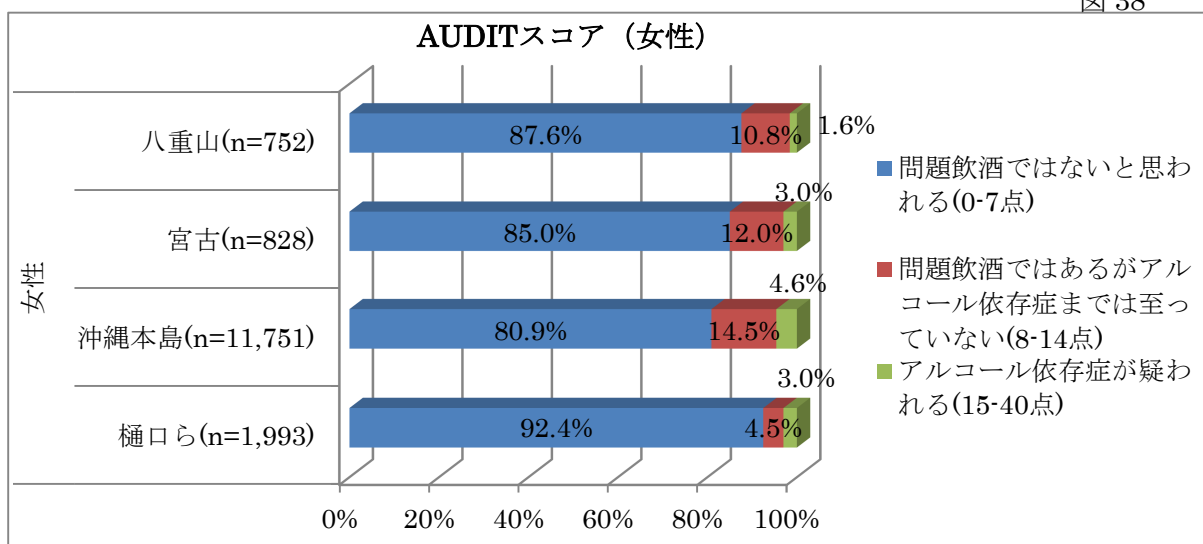
※平成 26 年度適正飲酒推進調査事業(沖縄県)

※宮古地域における飲酒の実態調査報告(平成 26 年 3 月)

※若年者における飲酒および他の依存の実態とその背景に関する調査研究（樋口進）

女性の場合、「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる飲酒群」はそれぞれ 10.8%、1.6%で宮古地域の 12.0%、3.0%、沖縄本島の 14.5%、4.6%と比較すると低かった。しかし、樋口らの調査の 4.5%、3.0%と比較すると八重山地域は「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」は約 2 倍、「アルコール依存症が疑われる飲酒群」は約半数の割合であった。(図 38)

図 38



※平成 26 年度適正飲酒推進調査事業(沖縄県)

※宮古地域における飲酒の実態調査報告(平成 26 年 3 月)

※若年者における飲酒および他の依存の実態とその背景に関する調査研究 (樋口進)

(イ)年代別 AUDIT スコア(男性)

男性の場合、「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる」者の割合が20代で54.3%、30代は56.3%で、樋口らの調査の20代14.9%、30代25.1%と比較すると約2~3倍高かった。また、50代は52.1%、60代は50.5%で樋口らの調査の50代37.6%、60代30.2%と比較すると約1.5倍高かった。(図39)(図40)

図 39

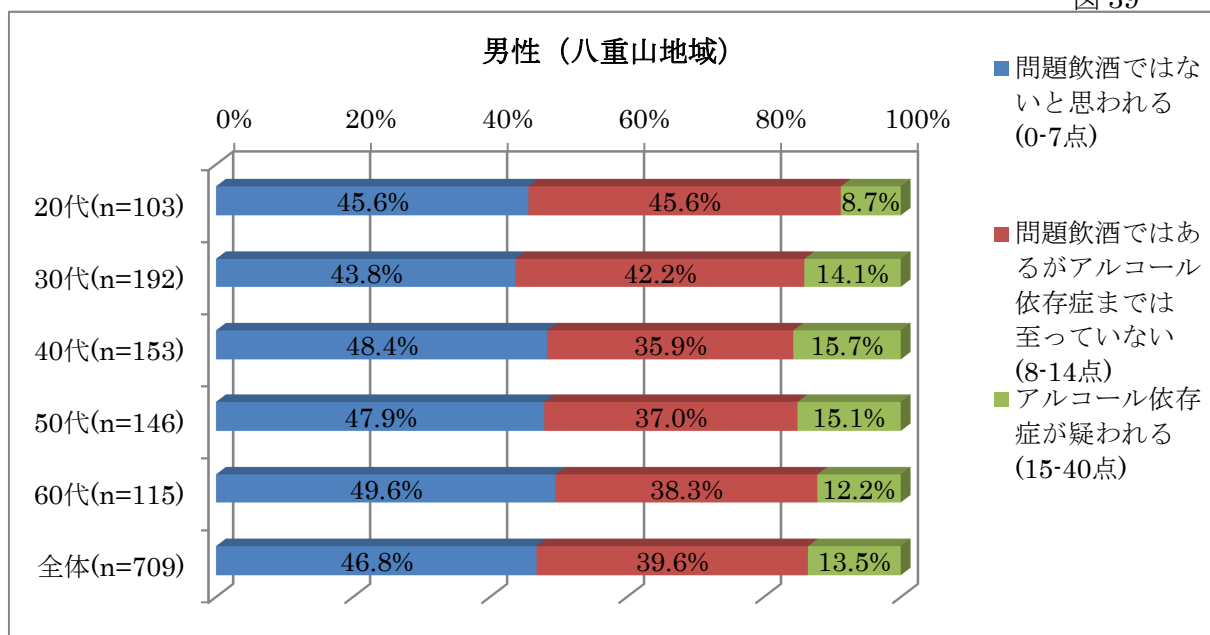
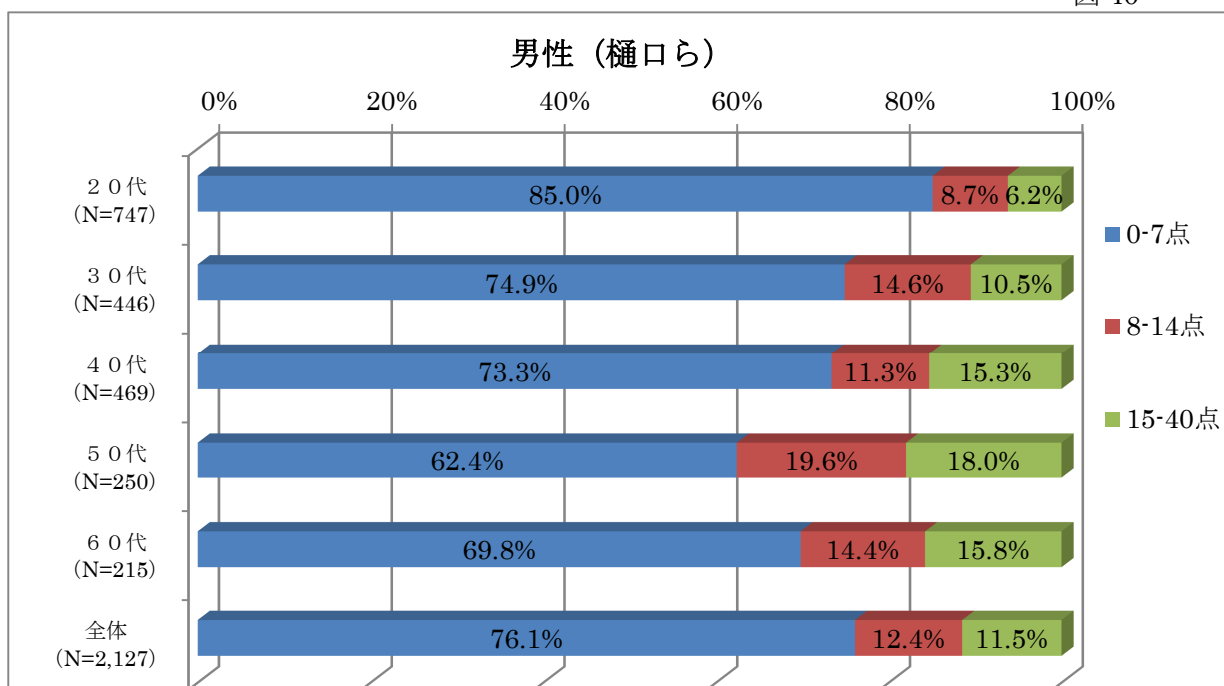


図 40



※若年者における飲酒および他の依存の実態とその背景に関する調査研究 (樋口進)

(ウ)年代別 AUDIT スコア(女性)

女性の場合、「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる」者の割合が 20代は 27.3%で、樋口らの調査の 20代 7.2%と比較すると約 4 倍だった。逆に 50代、60代はそれぞれ 4.4%、1.7%で樋口らの調査の 50代 6.5%、60代 5.7%と比較すると「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる」者の割合は低かった。(図 41)(図 42)

図 41

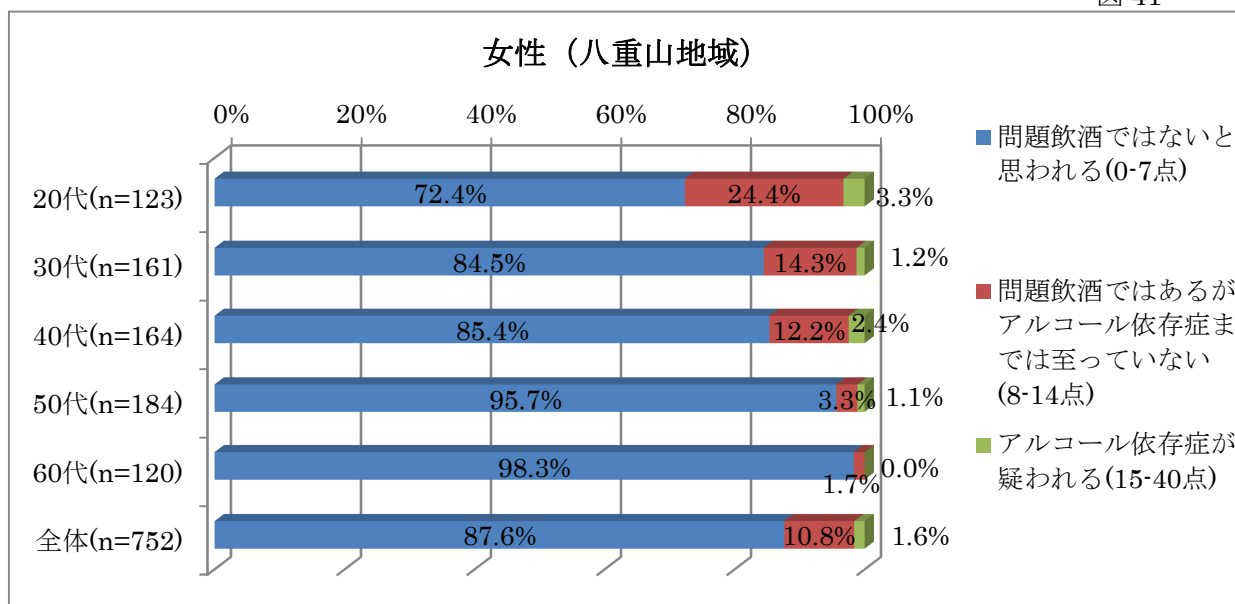
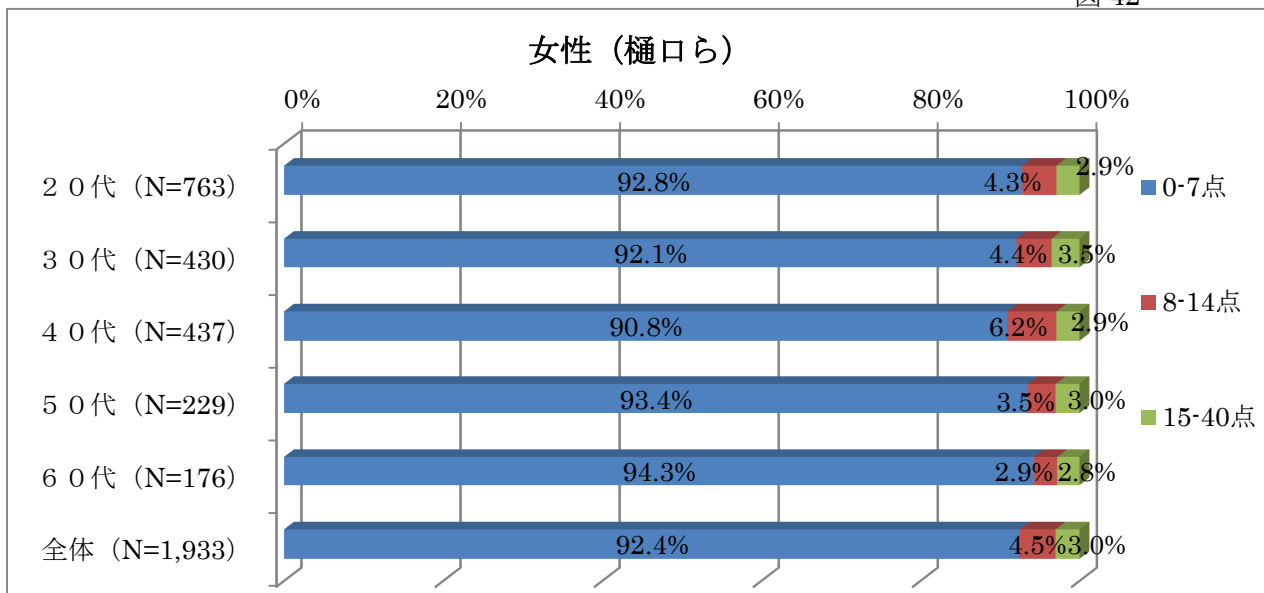


図 42



※若年者における飲酒および他の依存の実態とその背景に関する調査研究（樋口進）

(4)初飲年齢関連

本調査と平成 26 年度適正飲酒推進調査事業（沖縄本島）、宮古地域における飲酒の実態調査報告と比較した。「未成年飲酒者の平均初飲年齢」について、八重山地域は宮古地域と比較すると年齢が若く、全体の「平均初飲年齢」も若いことがわかった。（表 2）

表 2

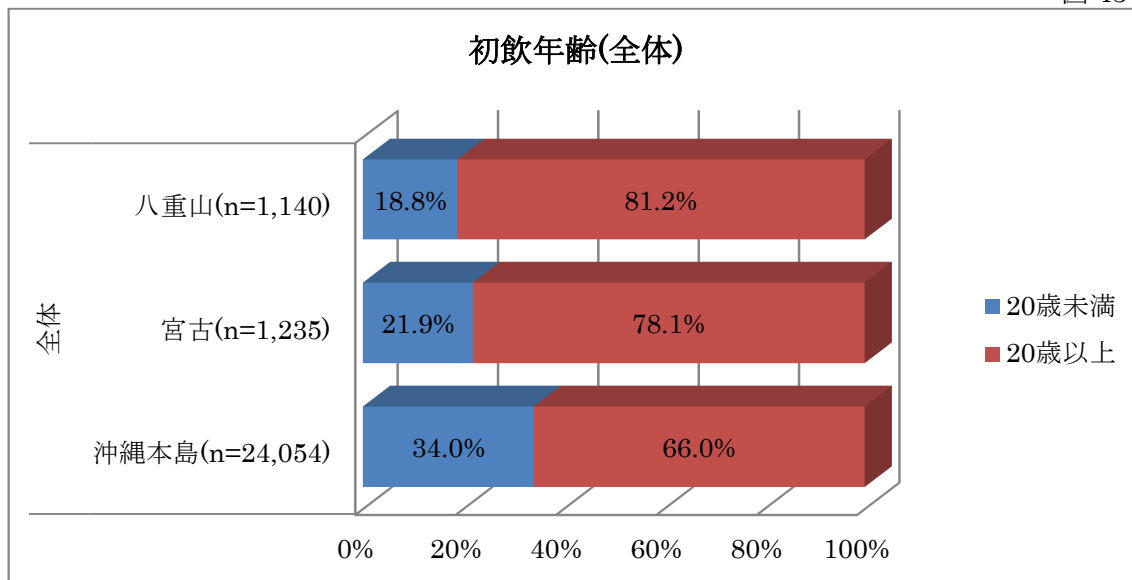
		未成年飲酒者の 平均初飲年齢	平均初飲年齢
八重山	全体	16.7 歳	19.9 歳
	男	16.9 歳	19.7 歳
	女	16.3 歳	20.2 歳
宮古	全体	17.2 歳	20.4 歳
	男	17.1 歳	19.6 歳
	女	17.4 歳	21.4 歳

※宮古地域における飲酒の実態調査報告（平成 26 年 3 月）

また、初飲年齢の「20歳未満」の割合でみると、八重山地域は18.8%で、宮古地域の21.9%、沖縄本島の34.0%と比べると低かった。

男女別で、宮古地域と比べると女性はほとんど同じ割合であったが、男性は「20歳未満」の割合は低かった。(図43)(図44)

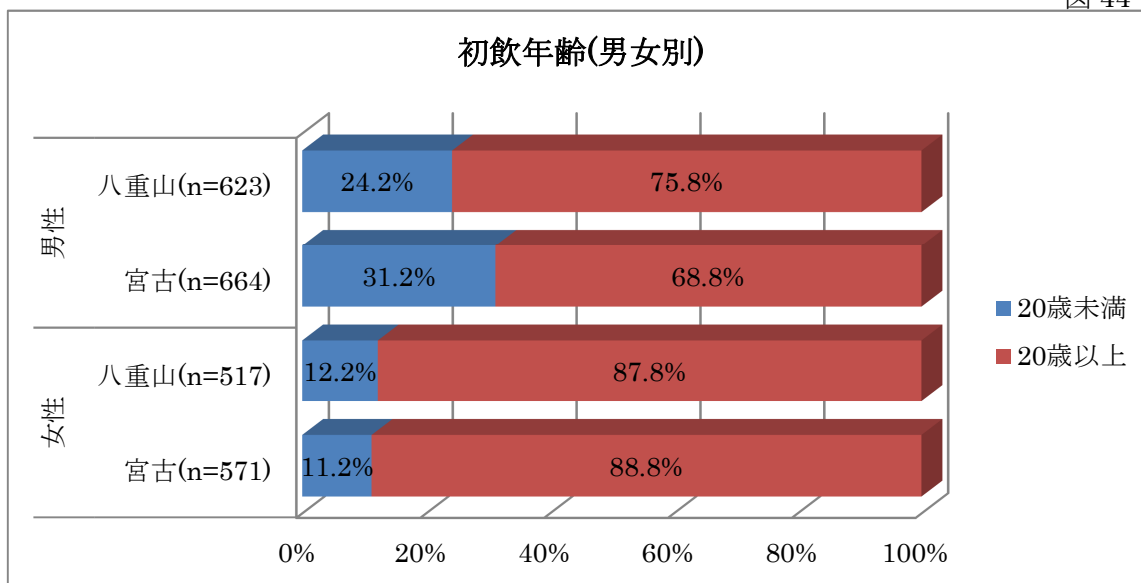
図 43



※平成26年度適正飲酒推進調査事業(沖縄県健康長寿課)

※宮古地域における飲酒の実態調査報告(平成26年3月)

図 44



※宮古地域における飲酒の実態調査報告(平成26年3月)

4 八重山地域の現状と課題

【男性】

・八重山地域の飲酒者は年代が高くなるにつれ、若干減少傾向にあるが、最も低い50代でも約80%は飲酒している結果であった。全国と比較すると沖縄県の飲酒者は明らかに多い。

・樋口らの調査では50代の「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる」者の割合(37.6%)の高さが目立つのに対し、八重山地域は「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」者はどの年代でも約40~45%おり、「アルコール依存症が疑われる」者は約10~15%いた。10人に1人はアルコール依存症が疑われる者であり、10人に4人はアルコール依存症までは至っていないが問題飲酒者であった。樋口らの調査と比べ「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」者については約3倍以上の値であった。八重山地域は沖縄県本島、宮古と比較するとほとんど変わらないか、よいかのどちらかであったが、全国と比較することで八重山地域の飲酒問題の大きさが浮き彫りとなった。

・20代で1回の飲酒量が「0~2ドリンク」の割合(適正飲酒量を摂取している割合)は28.2%しかなく、1回で「7ドリンク以上」飲酒する者は47.6%で約半数を占めており、30代、40代、50代でも約40%はいた。7ドリンク以上の割合は全体で36.7%で樋口らの調査の7.9%(6ドリンク以上)と比較すると約4倍以上の割合であり、1回の飲酒量が多いことがわかった。

【女性】

・20代~40代は約70%で「お酒を飲む」と回答しているが50代、60代の飲酒者はそれぞれ45.1%、23.3%と低かった。しかし、女性全体の飲酒者は全国の約1.5以上いることから特に若い層を中心に飲酒習慣が広まっていることが考えられた。

・20代の「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」者の割合は24.4%、「アルコール依存症が疑われる」者の割合は3.3%おり、最も高い世代であった。年代が上がるにつれて減少傾向にあった。樋口らの調査と比較すると20代の「危険な飲酒群」「アルコール依存症疑い」は約4倍の値だったのに対し、50代・60代は樋口らの調査よりも低かった。

・1回の飲酒量が「0~2ドリンク」の割合(適正飲酒量を摂取している割合)は73.1%だった。しかし、年代別でみると20代で「0~2ドリンク」の割合は48.8%、「10ドリンク以上」は13.0%で他の年代よりも飲酒量が多いことがわかった。

【日頃から飲酒量を減らしたいと思うか】

・「日頃から飲酒量を減らしたいと思うか」という質問に対し、男女とも「アルコール依存症が疑われる群」において「そう思う」と回答した割合が最も高かった。「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる」者において、年代別に「日頃から飲酒量を減らしたいと思うか」という質問に対する回答をみると、男女とも20代～50代までは年代が高くなるにつれて「そう思う」と回答した割合が高くなっていった。

男性はどの年代においても、飲酒状況が全国よりも悪いことから、日頃から飲酒量を減らしたいと思う割合が高い50代、40代は早期介入や教育の効果が比較的得られやすいとも考えられた。

女性の場合、20代の飲酒状況が悪いのにもかかわらず、「日頃から飲酒量を減らしたい」と思う割合は他の年代よりも低かった。女性の20代を中心とした若い世代への教育が急がれる。

・「1回のお酒の量」（ドリンク数）によって「日頃から飲酒量を減らしたいと思うか」について変化はみられなかった、「飲酒頻度」については多い人の方が「日頃から飲酒量を減らしたいと思う」と回答した者が多い傾向にあった。一般的に「飲酒量」よりも「飲酒頻度」の方が飲酒への関心が高いことが考えられた。「ドリンク数」の概念を周知していく必要がある。

【講習区分】

講習区分「初回」者は「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」者の割合が他の講習区分より多かった。「初回」区分者は、若年者も多いことから飲酒に関する教育などのよい機会とも考えられる。

講習区分「違反」者は「アルコール依存症が疑われる」者、初飲年齢が「20歳未満」の割合が多かったことから、関係機関との連携をとり対策を講じていく必要がある。

【初飲年齢】

初飲年齢が20歳未満の方が「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる」者の割合が多かった。若い人ほど酒害の影響を受けやすいことから、学校教育関係者とも連携をとり対策を講じていく必要がある。

5 今後の対策

本調査から、八重山地域の男性全世代と女性の若い層を中心に飲酒問題の課題があることがわかった。また、飲酒年齢が20歳未満である者に、講習区分の「違反」者や「問題飲酒ではあるがアルコール依存症までは至っていない」「アルコール依存症が疑われる」者が多いこともわかった。飲酒問題に関する課題が大きく八重山地域全体で取り組む必要がある。

【一次予防】

・教育、普及啓発

未成年の初飲年齢が平均16.7歳であることから児童・生徒への飲酒に関する「教育」が急がれる。

男性の10人に1人はアルコール依存症疑いであり、10人に4人は危険な飲み方をしていることから、一般住民への「普及啓発」が重要である。

特に、男女とも、適正飲酒量を知っている者の割合が全国よりも明らかに低かったことや「飲酒量」が増えても「飲酒量を減らしたい」と思う割合に関連があまりみられなかったことから適正飲酒量についての「普及啓発」も必要である。

【二次予防】【三次予防】

・早期発見、早期介入のための機会の環境整備

男性についてはどの年代も飲酒問題が大きいことから、成人男性を取り巻く環境において早期発見、早期介入の整備が重要である。

例 早期発見、早期介入の機会としては健康診断、地域の一般診療、健康相談等

・妊婦健診等における早期発見、早期介入

女性の20代を中心とした若年層に飲酒問題の課題が大きいことから、女性の若年層の早期発見、早期介入のための環境整備が重要である。

・関係機関における早期発見、早期介入

講習区分の「違反」者に「アルコール依存症が疑われる」者、初飲年齢が「20歳未満」の割合が多かったことから、関係機関における早期介入のための対策を講じていく必要がある。

・確実な支援のための専門職の技術向上

早期発見や早期介入のためには、専門職の飲酒に関する支援技術が重要となる。支援技術向上のための「研修会」の企画や周知、参加も重要である。

【対策の推進】

・対策の検討や関係機関の連携を充実させるための「会議」の開催

各関係機関の連携や各部署における対策を検討するため、平成28年度は八重山地区健康おきなわ21推進会議飲酒部会の設置を検討する。

謝辞

本調査の実施にあたり、沖縄県八重山警察署・沖縄県警察安全運転学校八重山分校、独立行政法人国立病院機構琉球病院福治康秀院長、福田貴博先生、調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

参考文献

- 1)厚生労働省：標準的な健診・保健指導プログラム【改定版】第3編(平成25年4月)
- 2)沖縄県福祉保健部：県民健康・栄養調査の現状－平成23年度沖縄県県民健康・栄養調査成績－
- 3)厚生労働省：平成20年国民健康・栄養調査報告
- 4)沖縄県：平成26年度適正飲酒推進調査事業
- 5)厚生労働省：平成24年国民健康・栄養調査報告
- 6)宮古保健所：宮古地域における飲酒の実態調査報告(平成26年3月)
- 7)厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「若年者における飲酒および他の依存の実態とその背景に関する調査研究(研究代表者：樋口進)平成23年度分担研究報告書

【資料】

八重山管内における飲酒と健康に関する調査実施要項

1 目的

沖縄県は都道府県別平均寿命の順位が下がるなか、平成 22 年の人口動態統計によると肝疾患による年齢調整死亡率が全国値を大きく上回り、年次推移において増加傾向にある。また、本県のアルコール性肝疾患による死亡率は全国値の約 2 倍と高く、アルコールに関する健康問題は重要な課題である。

「健康おきなわ 21（第 2 次）」において、重点的に取り組む三つの事項のひとつにアルコール対策を掲げ、生活習慣病のリスクを高める量の飲酒者の減少と節度ある飲酒の知識の普及を目標としている。

管内において実態把握のため飲酒に関するアンケート調査を行い、正しい知識の普及と健康に及ぼす影響への早期介入を目指し、実態に即した対応を検討する。

2 実施主体

八重山保健所

3 調査期間（案）

平成 26 年 6 月 16 日（月）～ 平成 26 年 9 月 30 日（火）予定

4 調査対象

沖縄県警察安全運転学校八重山分校 運転免許証更新講習受講者

5 調査内容

AUDIT（アルコール使用障害特定テスト）を主とした調査用紙を使用する。

AUDIT は、WHO が問題飲酒を早期に発見する目的で作成したスクリーニングテストであり、診断をするものではない。日本でも広く活用されている。今回の調査ではアルコール飲料に泡盛を含め、飲酒量の換算の負担が少なくなるよう記入の仕方を変更した質問紙を使用する。

6 調査方法

沖縄県警察安全運転学校八重山分校で運転免許証更新講習時、調査目的や個人情報保護に関する説明文書（資料 1）と調査用紙（資料 2）を配布する。調査用紙は、無記名自記式とし、任意による記入とする。

資料1 「飲酒と健康に関するアンケート調査について」

資料2 「飲酒と健康に関するアンケート調査(回収用)」

○調査用紙の配布と回収

講習受付時に、資料1・2を配布し、講習までの時間を使用して各自記入とする。

回収は、教室内に回収箱を設置し、各自入れることとする。

回収された調査用紙は、保健所が沖縄県警察安全運転学校八重山分校へ毎週回収に行く。

7 倫理上の配慮

調査目的や個人情報の保護に関する説明文書を調査用紙とともに配布し、記入回収により同意を得るものとする。

個人情報保護のため、回収された調査用紙の記入事項は数値化したデータで保管する。調査用紙原票はデータ化完了後、八重山保健所が廃棄する。

8 調査結果

調査結果は、集計分析後、八重山保健所 HP 上で公開し、今後の健康づくりの取り組みに活かす。

また、沖縄県警察安全運転学校八重山分校へ、調査結果について情報提供を行う。

9 その他

飲酒に関する生活習慣の改善と適正飲酒の普及啓発を図るため、希望者には配布できるようアルコールに関するリーフレット等を置く。

飲酒と健康に関するアンケート調査について

このアンケート調査は、八重山保健所が実施するものです。ご協力よろしく願いいたします。

八重山地域における飲酒と健康に関する実態把握を目的としております。
運転免許の更新や講習に一切関係ありません。

～調査に関する同意のお願いと個人情報の取り扱いについて～

- ・ アンケート調査へのご協力は皆様の自由意思によりますので、回答を途中でやめることもできます。また、回答なさらない場合にも何ら不利益は生じません。
- ・ ご回答いただいた内容は、地域の健康づくりと調査研究目的以外には使用いたしません。
- ・ 情報は厳重に管理し、回答者が特定されないよう配慮してデータ化し、結果を公表する際も個人情報を保護します。

これらの内容をよくお読みになり、アンケート調査の回答にご記入いただくことで、本調査に同意されたこととさせていただきます。

また、別途飲酒や健康に関するご心配・ご質問等ありましたら、下記までご連絡ください。

担当
八重山保健所 健康推進班
石垣市真栄里 438
TEL 0980-82-4891 FAX 0980-83-0474

※お願い 用紙と一緒に鉛筆は、筆記用具入れにお戻しく下さい。

飲酒と健康に関するアンケート調査（回収用）

当てはまる項目にチェック、または記入してください。

講習（優良・一般・違反・初回）

性別（男・女）

年齢（　　歳）

初飲酒年齢（　　歳）



I. 「節度ある適度な飲酒量（男性）」はどのくらいだと思いますか？

1. ビール500ml 缶0.5缶（泡盛なら原液0.3合、ワインならグラス1杯）
2. ビール500ml 缶1缶（泡盛なら原液0.5合、ワインならグラス2杯）
3. ビール500ml 缶1.5缶（泡盛なら原液0.8合、ワインならグラス3杯）
4. ビール500ml 缶2缶（泡盛なら原液1合、ワインならグラス4杯）

II. お酒を飲むことがありますか？

1. 飲む
2. 飲まない ⇒ 次は裏面（問.VI）へ

※以下はお酒を飲むことがある方にお聞きします。

III. 日頃から飲酒量を減らしたいと思いますか。

1. そう思う
2. どちらでもない
3. そう思わない

IV. 1回の飲酒量

普段1回で飲むお酒の量をだいたい良いので記入してください。

※日によって飲むものが違う場合は、ご自分が多いと思うパターンで記入してください。

お酒の種類	量	※記入したものの合計が1回量になります	
ビール 	缶 350ml	約（　　）	缶 
	500ml (中ビン)	約（　　）	缶
	中ジョッキ (320ml)	約（　　）	杯
泡盛 	原液で1合180ml	約（　　）	合
	焼酎	原液で1合180ml	約（　　）合
缶チューハイ	1缶 350ml	約（　　）	缶 
ワイン	1杯 180ml	約（　　）	杯
日本酒	1合 180ml	約（　　）	合
その他	種類と量をご記入ください		
	（　　）		
	（　　）		

V. 飲酒について以下の質問に対し、該当する番号に○をつけてください。

1) あなたはアルコールをどのくらいの頻度で飲みますか？

1: 1か月に1回以下

2: 1か月に2～4回

3: 1週間に2～3回

4: 1週間に4回以上

裏面へ 

八重山保健所

V. 飲酒について以下の質問に対し、該当する番号に○をつけてください。

2) 1度にビール(500ml)で3缶、または泡盛(30度)で1合半程度以上飲酒することがどの位の頻度でありますか？	1: ない	2: 1か月に1回未満	3: 1か月に1回
	4: 1週間に1回	5: 毎日、あるいはほとんど毎日	
3) 過去1年間に、飲酒後罪悪感や自責の念にかられたことが、どのくらいの頻度でありましたか？	1: ない	2: 1か月に1回未満	3: 1か月に1回
	4: 1週間に1回	5: 毎日、あるいはほとんど毎日	
4) 過去1年間に、飲み始めると止められなかったことが、どのくらいの頻度でありましたか？	1: ない	2: 1か月に1回未満	3: 1か月に1回
	4: 1週間に1回	5: 毎日、あるいはほとんど毎日	
5) 過去1年間に、飲酒のために前夜の出来事を思い出せなかったことが、どのくらいの頻度でありましたか？	1: ない	2: 1か月に1回未満	3: 1か月に1回
	4: 1週間に1回	5: 毎日、あるいはほとんど毎日	
6) 過去1年間に、普通だで行えることを、飲酒をしていたためにできなかったことが、どのくらいの頻度でありましたか？	1: ない	2: 1か月に1回未満	3: 1か月に1回
	4: 1週間に1回	5: 毎日、あるいはほとんど毎日	
7) 過去1年間に、深酒の後体調を整えるために、朝迎え酒をしなければならなかったことは、どのくらいの頻度でありましたか？	1: ない	2: 1か月に1回未満	3: 1か月に1回
	4: 1週間に1回	5: 毎日、あるいはほとんど毎日	
8) あなたの飲酒のために、あなた自身か他の誰かがけがをしたことがありますか？	1: ない	2: あるが、過去1年にはなし	3: 過去1年間にあり
9) 肉親や親戚、友人、医師、あるいは他の健康管理にたずさわる人が、あなたの飲酒について心配したり、飲酒量を減らすように勧めたりしたことがありますか？	1: ない	2: あるが、過去1年にはなし	3: 過去1年間にあり

VI. タバコについて以下の質問に対し、該当する番号に○をつけてください。

- 1) あなたはタバコを吸いますか？
 - 1 吸う
 - 2 吸わない
 - 3 吸っていたがやめた
- 2) 受動喫煙の害(他人のタバコの煙を吸わされる害)について知っていますか？
 - 1 知っている
 - 2 知らない
- 3) 飲食店のタバコ対策についてどう思いますか？
 - 1 店内禁煙を望む
 - 2 どちらでもよい
 - 3 店内禁煙は困る

以上でアンケートは終了です。

ご協力ありがとうございました。お疲れ様でした

八重山保健所

八重山地域における飲酒の実態調査報告書

平成 28 年 3 月発行

発行元 沖縄県八重山福祉保健所

〒907-0002

沖縄県石垣市真栄里 438

TEL 0980-82-4891

FAX 0980-83-0474